佐賀県文化財調査報告書第171集

佐賀県内遺跡確認調査報告書25

2007年3月

佐 賀 県 教 育 委 員 会

は　じ　め　に

この報告書は、佐賀県内で実施される農林業基盤整備事業、那珂川総合開発事業（五ヶ山ダム建設事業）、嘉瀬川ダム建設事業、その他国・県所管の公共事業の施工に先立ち実施した、埋蔵文化財の確認調査の結果をまとめたものです。

本県には埋蔵文化財が多数存在しており、県教育委員会では、これらの貴重な文化財の保護と開発との調整を円滑に進めるために、協議があった開発予定地について現地踏査を実施しました。これにより遺跡の存在が予測される等埋蔵文化財の有無・性格等を調査する必要があるものについては試掘・確認調査を実施し、遺跡の内容把握に努め、これをもとに埋蔵文化財の保護を進めています。

今回、農林業基盤整備事業、その他国・県所管の公共事業の施工予定地区について文化財確認調査を行った結果、縄文時代から近世にわたる遺跡が確認されました。

本書が、文化財を県民の共有財産として大切に保存していくための資料として活用していただければ幸いです。

この調査にあたって、文化庁、九州農政局、国土交通省九州地方建設局、福岡県をはじめとする国・県各事業の関係機関、各市町村教育委員会・農林担当課等、並びに地元関係各位の深い御理解と御協力をいただき、心からお礼申し上げます。

平成19年3月31日
佐賀県教育委員会
教 育 長　　吉 野 健 二

例　　言

1．本書は国庫補助金（県内遺跡発掘調査事業）を受け、平成17年度に実施した佐賀県農林業基盤整備事業、福岡県境に予定されている那珂川総合開発事業（五ヶ山ダム建設事業）、その他国・県所管の公共事業等に伴う文化財確認調査等に関する調査結果報告書である。

2．調査は市町村教育委員会の協力を得て、佐賀県教育委員会が行った。

3．トレンチ（試掘坑）位置図作成、遺構の実測、写真撮影は調査員が行った。

4．遺物の整理・製図・報告書作成作業は、佐賀県文化課（神埼八子事務所・佐賀県文化財調査研究資料室）で行った。
　遺物・図面整理、製図等……三好文子

5．平成17年度に三瀬村は佐賀市と、山内町は武雄市と、東脊振村は三田川町と合併し、それぞれ佐賀市、武雄市、吉野ヶ里町となった。協議や文化財調査の時点では三瀬村、山内町、東脊振村であったこともあり、本書では旧三瀬村、旧山内町、旧東脊振村または現佐賀市・現武雄市、現吉野ヶ里町といった表記を括弧書きで用いている。

6．本書に用いた方位は、原則として座標北とし、磁北を用いた場合はその旨を記した。

7．挿図中、小トレンチを□■で表記したもののうち■は遺構・遺物が確認されたトレンチ、□は遺構・遺物が確認されなかったトレンチを示す。ただし、遺物の出土が表土層からのみであった場合は□で表す。トレンチの調査内容については本文に記すとおりである。

8．本書の内容は調査員から提出された調査結果報告をもとに編集者がとりまとめた。その際、報告等の原稿のうち、「土壙」や「‥‥跡」の表記等については統一を図る必要性等から一部表現を変えたところがある。これらの文責は編集者に帰す。

9．本書の執筆は各調査に係る部分については、各項目の最初に記す調査担当者が行ない、それ以外のもの及び編集は松尾法博が行なった。

目　　次

Ⅰ．調査に至る経過 …… 1
1．農林業基盤整備事業等に係る文化財確認調査 …… 1
(1) 農林業基盤整備事業等に係る協議 …… 1
(2) 文化財確認調査 …… 1
(3) 農林業基盤整備事業等と文化財保護に関する協議 …… 1
2．その他公共事業等に係る文化財確認調査 …… 2
3．調査組織 …… 3

Ⅱ．平成17年度実施の文化財確認調査の概要 …… 11
［1］農林業基盤整備事業等に係る文化財確認調査 …… 11
1．佐賀東部地区の調査 …… 11
(1) 三瀬村（現佐賀市） …… 12
2．佐賀西部地区の調査 …… 14
(1) 佐賀市 …… 15
3．佐賀南部地区の調査 …… 20
(1) 山内町（現武雄市） …… 21
4．佐賀北部地区の調査 …… 34
(1) 伊万里市 …… 35
［2］その他公共事業等に係る文化財確認調査 …… 37
1．那珂川総合開発事業（五ヶ山ダム建設事業）に係る文化財確認調査 …… 37
(1) 東脊振村（現吉野ヶ里町） …… 37
2．嘉瀬川ダム建設事業に係る文化財確認調査 …… 49
(1) 富士町（現佐賀市） …… 49
3．石井樋地区歴史的水辺整備事業（嘉瀬川河川改修工事）に係る調査 …… 55
(1) 大和町 …… 55

Ⅲ．まとめ …… 57

Ⅳ．資　料 …… 59

挿　図　目　次

第1図　平成17年度県内遺跡確認調査実施地区位置図 …… 9～10
第2図　佐賀東部地区調査地区位置図（S＝1：100,000） …… 11
第3図　三瀬村：県営中山間地域総合整備事業（三瀬地区）トレンチ配置図 …… 13
第4図　佐賀西部地区調査地区位置図（S＝1：100,000） …… 14
第5図　佐賀市：筑後川下流農業水利事業（城原金立線）トレンチ配置図（S＝1：200） …… 17～18
第6図　佐賀南部地区調査地区位置図（S＝1：100,000） …… 20
第7図　山内町：森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　調査対象地位置図（S＝1：5,000） …… 24
第8図　山内町：森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　トレンチ配置図 …… 25
第9図　山内町：森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　検出流路推定図 …… 26

第10図　佐賀北部地区調査地区位置図（S＝100,000）……34
第11図　伊万里市：予防治山　腰岳地区トレンチ配置図（S＝1：1,000）……36
第12図　東脊振村：那珂川総合開発事業（五ヶ山ダム建設事業）調査地区位置図……38
第13図　東脊振村：五ヶ山ダム建設事業　調査対象地区位置図……39
第14図　東脊振村：五ヶ山ダム建設事業　第1地点トレンチ配置図……40
第15図　東脊振村：五ヶ山ダム建設事業　第2地点トレンチ配置図……41
第16図　東脊振村：五ヶ山ダム建設事業　第3地点トレンチ配置図・石垣等位置図（S＝1：5,000）……43
第17図　東脊振村：五ヶ山ダム建設事業　第4地点トレンチ配置図（S＝1：1,000）……44
第18図　東脊振村：五ヶ山ダム建設事業　第5地点トレンチ配置図（S＝1：1,000）……45
第19図　佐賀市富士町：嘉瀬川ダム建設事業調査地区位置図（S＝1：100,000）……50
第20図　嘉瀬川ダム建設事業　大串地区トレンチ配置図（S＝1：1,000）……51
第21図　嘉瀬川ダム建設事業　栗並地区トレンチ配置図（S＝1：1,000）……52
第22図　嘉瀬川ダム建設事業　畑瀬地区トレンチ配置図（S＝1：1,000）……53
第23図　大和町：石井樋位置図（S＝1：50,000）……55
第24図　大和町：石井樋地形測量図……55～56

図　版　目　次

図版１　三瀬村：県営中山間地域総合整備事業　三瀬地区（大谷地区）……12
図版２　佐賀市：筑後川下流農業水利事業（城原金立線）①……16
図版３　佐賀市：筑後川下流農業水利事業（城原金立線）②……19
図版４　山内町：森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　板ノ川内地区……27
図版５　山内町：森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　板ノ川内地区現地踏査資料……28
図版６　山内町：森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　板ノ川内地区確認調査出土遺物１……31
図版７　山内町：森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　板ノ川内地区確認調査出土遺物２……32
図版８　山内町：森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　板ノ川内地区確認調査出土遺物３……33
図版９　伊万里市：予防治山　腰岳地区……35
図版10　東脊振村：五ヶ山ダム建設事業１……46
図版11　東脊振村：五ヶ山ダム建設事業２……47
図版12　東脊振村：五ヶ山ダム建設事業３ 石垣……48
図版13　東脊振村：五ヶ山ダム建設事業４ 石垣・石造物……49
図版14　富士町：嘉瀬川ダム建設事業地区内確認調査状況……54

表　目　次

表１　農林業基盤整備地区内における平成17年度埋蔵文化財調査対象地区一覧表……5
表２　佐賀県内遺跡確認調査地区一覧（平成17年度実施）……10
表３　山内町：森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　板ノ川内地区確認調査出土遺物一覧表……29
表４　佐賀県内遺跡確認調査地区一覧表（平成17年度実施）……58

Ⅰ．調査に至る経過

１．農林業基盤整備事業等に係る文化財確認調査

（1）農林業基盤整備事業等に係る協議

農林業基盤整備事業については、昭和53年4月（昭和59年4月1日一部改正）に県農林部と県教育委員会が交わした「農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の保護に関する確認事項」に基づき、翌年度工事予定地区に関し文化財確認調査の有無等について協議を実施している。平成18年度農林業基盤整備事業については、平成17年8月17日付け教委文第10833号で国の機関や県農林事業担当課あて事業照会を行い、これに対する事業協議を受けて、関係市町村教育委員会と協力して検討を行った。施工主体は、県土づくり本部・農林水産商工本部所管の県営、市町村所管の団体営事業等に区分される。また、九州農政局筑後川下流農業水利事務所所管の筑後川下流用水事業に伴う協議（佐賀市・大和町・小城町・多久市）、同局筑後川下流白石平野農業水利事業所所管の筑後川下流白石平野農業水利事業に伴う協議（牛津町・江北町・大町町）、佐賀中部農地防災事業所所管の農業用水関係事業に伴う協議（佐賀市・東与賀町・川副町・大和町・芦刈町・牛津町）もなされた。

これらの検討・調整の結果、施工予定地区のうち、予備調査（分布・試掘・確認調査）が必要となった地区は、佐賀東部地区（鳥栖市・基山町・中原町・北茂安町・上峰町・神埼町・東脊振村・脊振村・三瀬村）75.84ha、佐賀西部地区（佐賀市・多久市・東与賀町・諸富町・川副町・久保田町・大和町・富士町・小城町・三日月町・牛津町・芦刈町）45.77ha、佐賀南部地区（武雄市・鹿島市・山内町・江北町・大町町・北方町・白石町・太良町・塩田町・嬉野町）65.53ha、佐賀北部地区（伊万里市・有田町・西有田町・七山村）15.75ha、佐賀上場地区（唐津市・玄海町）18.07haの合計220.29ha である（表１）。

（2）文化財確認調査

協議を行った施工計画について現地踏査などの結果をもとに検討を行い、文化財確認調査が必要と認められた地区を決定した。これを受け、当該市町村教育委員会・農林担当課、県土づくり本部・農林水産商工本部、九州農政局と「平成18年度農林業基盤整備事業に係る文化財の保護に関する第１回協議会」を県教育委員会が主催して平成17年10月17日に開催し、文化財確認調査の時期など円滑な実施について協議した。文化財確認調査は原則として稲刈り終了から麦の作付けまでの期間（9月～12月）を中心に行ったが、地区によっては上物の状況等により、年度末までずれ込む箇所もあった。確認調査は原則として、2ｍ×2ｍのトレンチ（試掘坑）を20ｍ間隔で碁盤目状に、また農道・林道等調査対象地区が狭い場合は地形や工事計画を考慮して設定し、埋蔵文化財の有無、性格、範囲などを調査した。

（3）農林業基盤整備事業等と文化財保護に関する協議

確認調査等を実施した結果、佐賀東部地区で0㎡、佐賀西部地区で120㎡・佐賀南部地区で0㎡・佐賀北部地区で0㎡・佐賀上場地区で0㎡、合計120㎡の遺跡の広がりが確認できた。内容としては、古墳時代の集落跡などを確認した。例年、これらの確認調査の結果を受けて、12月中旬に次年度の農林業基盤整備事業に係る文化財の保護に関する第2回協議会を開催していたが、今回は確認された遺跡が少なかったため、全体協議から個別協議に切り替えた。個別協議では、確認調査の結果をもとに、文化財の保存について工事計画との調整を図った。このうち、農道・用排水路・復旧治山事業等については路線等の変更により遺跡の保存に努めたが、設計変更によっても保存が不可能なものについては、協議の上、工事実施前に記録保存の措置を取ることとした。

２．その他公共事業に係る文化財確認調査

農林業基盤整備事業以外の国・県主体の公共事業について、平成17年度に確認調査を実施した事業及び遺跡は、那珂川総合開発事業（五ヶ山ダム建設事業）に係る予定地区内遺跡の文化財確認調査と国土交通省嘉瀬川ダム工事務所所管の嘉瀬川ダム建設事業に伴う西畑瀬遺跡等がある。

（1）那珂川総合開発事業（五ヶ山ダム建設事業）に係る文化財確認調査

五ヶ山ダムは、那珂川水系那珂川の福岡県筑紫郡那珂川町大字五ヶ山地先に多目的ダムとして建設するもので、那珂川総合開発事業の一環をなすものである。五ヶ山ダムの建設により洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水の安定供給を図ると共に福岡市圏の異常渇水時の緊急水補給を行う予定である。

脊振村に源を発して北流し博多湾に注ぐ那珂川の流域は福岡市、春日市、那珂川町そして佐賀県東脊振村（現吉野ヶ里町）の2市1町1村からなり、流域面積は124㎢である。那珂川には既に福岡県営南畑ダム（昭和42年竣工）、水道専用の福岡市営脊振ダムがあり、五ヶ山ダムは同河川で3つ目のダムとして福岡県が事業主体となって建設することとなった。五ヶ山ダムのダム軸は福岡県筑紫郡那珂川町大字五ヶ山に位置するがその貯水域並びに影響範囲は五ヶ山地内のみならず佐賀県神埼郡吉野ヶ里町（旧東脊振村）小川内に及び、水没面積130万㎡、移転戸数は75戸を予定している。福岡県は昭和53～54年の異常渇水を受けて、昭和54年（1979）には那珂川におけるダム建設に向けての地形測量や物理探査などの予備調査を開始し、昭和58年（1983）からは実施計画調査に入っていった。そして、昭和63年（1988）度にはダム建設事業が建設省（現：国土交通省）に採択され、平成3年（1991）12月にはダム軸が決定された。これにより、那珂川町五ヶ山地区全域（網取・桑河内・東小川内・大野）と佐賀県東脊振村（現吉野ヶ里町）小川内のそれぞれの集落が影響を受けることとなった。平成8年（1996）には、ダム建設事業に係る用地補償に関する協定書が締結され、翌平成9年（1997）11月にはダム事業全体の計画が認可され、さらに平成12年の地目認定基準締結等を経て、平成14年（2002）12月14日には損失補償合意の調印式が行われた。その後、地元の生活再建対策および補償交渉を進めながら事業が推進されている。

ダム事業に係る文化財等の調査については、福岡県北谷・五ヶ山ダム建設事務所（現：五ヶ山ダム建設事務所）が主体となって自然部門の任意観察・聞き取り調査等が平成2年度から開始されている。また、佐賀県と福岡県との文化財部局及びダム関係部局との合同会議については、平成9年度から開始され同年（1997）6月5日に「第1回五ヶ山ダム文化財調査連絡調整会議」が開催された。それと併行して文化財担当者のみの打合せや協議も継続して実施されてきた。平成16年度については工事用道路についての協議を行い、これに基づく踏査や工事立会を実施した。また、平成17年度には急遽、土捨て場工事やそれに先立つ排水工事計画が協議され、県文化課職員による現地踏査を実施した。踏査および協議の結果、地区内の石垣の記録保存が必要となり、また、大野土捨場については事前の確認調査が必要となった。平成17年9月9日付け　17五ダム第4097号で福岡県五ヶ山ダム建設事務所長から佐賀県文化課長あてに「五ヶ山ダム建設に伴う文化財確認調査について（依頼）」が提出された。これは平成17年度～平成22年度に工事が計画される付け替え道路及び付帯工事に伴う水没地・国道385号道路・県道早良中原停車場線道路についての確認調査の依頼で、これを受け急遽平成17年10月下旬から文化課職員により当該地区の確認調査に着手し、平成18年2月下旬から3月上旬にも水没地の確認調査を行うこととなった。

（2）嘉瀬川ダム建設事業に係る文化財確認調査

嘉瀬川ダムは嘉瀬川水系嘉瀬川に計画され、下流域における洪水被害の軽減、既得取水の安定化及び河川環境の保全等のための流量の確保、佐賀西部地域への農業用水の確保および佐賀市周辺地域における都市用水を確保する多目的ダムである。開発規模は約404ha（うち水没面積は310ha）で、その開発対象地全体が佐賀市富士町に含まれている。ダム建設の事業主体は国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所である。

ダムサイトは佐賀市富士町小副川（左岸）・畑瀬（右岸）の標高約205ｍの川床部分に設置されるもので、この地点より上流部の標高約304ｍの等高線で囲まれる範囲が最大湛水地区（水没地区）となる。この水没地区には西畑瀬・東畑瀬・鷹ノ羽・小ケ倉・栗並・馬場・大串・大野・中原等の集落の全部または一部が含まれるほか、ダム関連開発（代替地開発・道路整備・土捨場）等により多くの埋蔵文化財や民俗資料等が破壊・水没することが予想された。

このうち民俗・民俗芸能・建築物・石造物・文書資料については、「嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会（米倉利昭委員長）」によって平成8～10年度にかけて学術調査が実施され、平成11年度には「嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書」としてその成果がまとめられている。一方、埋蔵文化財については、富士町内では過去の発掘調査データがほとんどないため、事業実施に際し埋蔵文化財にどの程度影響が及ぶのか早急に把握する必要が生じた。浦川、神水川、大串川などの中小の河川が収束して嘉瀬川となり、富士町域の南東隅から大和町へ流出する間に耕作適地の大部分を形成しそこに人口の大半が集中している。これら河川によって形成された河岸段丘や丘陵の先端部には旧石器時代から近世までの各時代の遺物、特に縄文時代、中世、近世の生活関連遺物が見られその遺跡の存在が予想されるが、従来、発掘調査によって確認された遺跡は僅かであって、遺物のほとんどは表面採集によるものであった。確認調査については平成10年度までは富士町教育委員会が調査主体となっていたが、事業量の増加を鑑み、平成11年度からは佐賀県教育委員会が調査主体となって県内遺跡確認調査事業（国庫補助事業）等により実施している。

平成12年度から佐賀県教育委員会では嘉瀬川ダム建設事業に伴う本調査に着手しており、平成24年度までに調査を終える予定である。工事計画に併せて、西畑瀬遺跡・東畑瀬遺跡・大野遺跡・大串遺跡など水没地区内での発掘調査が進み、縄文時代から近世の遺構・遺物を検出している。特に、縄文時代と中近世の遺跡が中心で2時期以上の遺構・遺物が重層的に複合していることが多い。現在までの重要な成果としては、東畑瀬遺跡において遺構・遺物の内容から神代勝利・長良の居館と考えられる戦国期の城館が検出されている。また、縄文時代の集落跡からは縄文土器などの遺物が大量に検出され、山間部における縄文時代の様相が次第に明らかになりつつある。なお、平成17年9月よりダム本体工事が着工され、現在、本格的な工事が進められている。水没する国道、県道の付替工事も進められており、付替国道323号の一部区間（古湯～栗並）が供用開始している。

（3）その他

国土交通省佐賀国道事務所所管の事業については平成17年7月7日に全体調整会議を開催し、その後当該市町村との個別協議を進めた。また、佐賀県県土づくり本部所管の土木事業については、平成17年10月下旬に県内の各土木事務所単位で協議を行い、事業計画と文化財の保護との調整を図り、当該市町村教育委員会で確認調査を行った。

４．調査組織

調査主体　佐賀県教育委員会

総　　括

局　　長	初村　健二	県文化課長
次　　長	東中川忠美	県文化課参事
	松本　誠一	県文化課副課長
	中村　　信	県文化課副課長

庶　　務

中原　吉朗	県文化課総務担当係長	平尾　和子	県文化課総務担当主査
黒木　文好	県文化課総務担当主査	山口　徹也	県文化課総務担当主事
碇　　一浩	県文化課総務担当主査	吉田　顕徳	県文化課総務担当主事

調　　査

調査総括　松尾　法博　　県文化課文化財指導担当係長

調 査 員　樋口　秀信　　県文化課文化財指導担当係長　　五島　昌也　　県文化課文化財指導担当主査

白木原　宜　　県文化課文化財指導担当主査　　宮武　正登　　県文化課文化財指導担当主査

古川　直樹　　県文化課文化財指導担当指導主事（事業調整担当）

徳永　貞紹　　県文化課文化財調査担当主査　　渋谷　格　　県文化課文化財調査担当主査

調査協力

佐賀市教育委員会　唐津市教育委員会　鳥栖市教育委員会　多久市教育委員会
伊万里市教育委員会　武雄市教育委員会　鹿島市教育委員会　川副町教育委員会
久保田町教育委員会　大和町教育委員会　富士町教育委員会　神埼町教育委員会
東脊振村教育委員会　脊振村教育委員会　三瀬村教育委員会　中原町教育委員会
千代田町教育委員会　基山町教育委員会　北茂安町教育委員会　上峰町教育委員会
小城町教育委員会　三日月町教育委員会　牛津町教育委員会　芦刈町教育委員会
玄海町教育委員会　浜玉町教育委員会　七山村教育委員会　厳木町教育委員会
相知町教育委員会　玄海町教育委員会　有田町教育委員会　西有田町教育委員会
山内町教育委員会　北方町教育委員会　有明町教育委員会　太良町教育委員会
塩田町教育委員会　嬉野町教育委員会

（農業基盤整備事業）

九州農政局筑後川下流農業水利事務所
九州農政局佐賀中部農地防災事業所
九州農政局筑後川下流白石平野農業水利事業所
佐賀県県土づくり本部　農村備整課・農山漁村課・森林整備課・下水道課
佐賀県農林水産商工本部　生産支援課・農産課・園芸課・畜産課・林業課
佐賀中部農林事務所　烏栖農林事務所　武雄農林事務所
鹿島農林事務所　伊万里農林事務所　唐津農林事務所
各市町村農林担当課

（那珂川総合開発事業～五ヶ山ダム建設事業）

福岡県　北谷・五ヶ山ダム建設事務所（現：五ヶ山ダム建設事務所）

（その他公共事業）

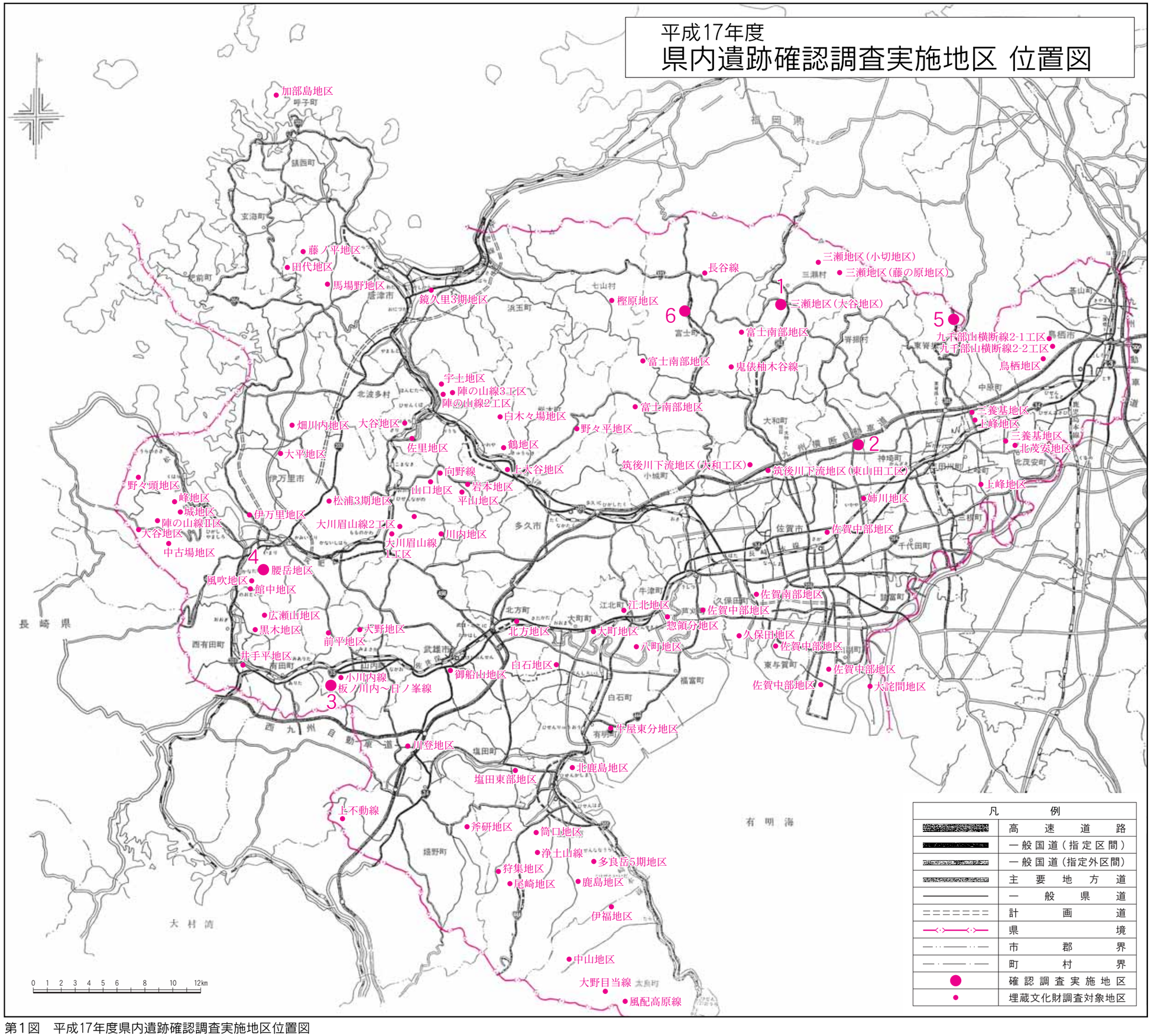
国土交通省嘉瀬川ダム事務所　国土交通省佐賀国道事務所
国土交通省武雄河川事務所　国土交通省筑後川河川事務所
佐賀県県土づくり本部　建設技術課・まちづくり推進課・下水道課・河川砂防課
佐賀県交通政策部　道路課
佐賀土木事務所　神埼土木事務所　鳥栖土木事務所
唐津土木事務所　伊万里土木事務所　武雄土木事務所
鹿島土木事務所　西部地区ダム建設事務所
地元各位

表１　農林業基盤整備地区内における平成17年度埋蔵文化財調査対象地区一覧表

	市町村名	地　区　名	事　　業　　名	確認調査対象面積（㎡）	遺跡の面　積（㎡）	遺跡の性格	備　　考
Ⅰ佐賀東部地区	鳥栖市	鳥栖地区	県営かんがい排水事業	7,000	0		一ノ坪遺跡、踏査のみ
		九千部山横断線2-1工区	道整備交付金事業	5,000	0		勝尾城下町遺跡、踏査のみ
		九千部山横断線2-2工区	道整備交付金事業	4,000	0		勝尾城下町遺跡、踏査のみ
	神埼町	姉川地区	県営一般農道整備事業（支線5,7,9,17,26号）	7,000	0		未周知、踏査のみ
	東脊振村	永山地区	復旧治山	1,000	0		未周知、踏査のみ
	脊振村	蓬畑地区	復旧治山	5,000	0		未周知、踏査のみ
		古釜地区	渓流等県土保全緊急対策	5,000	0		未周知、踏査のみ
	三瀬村	三瀬地区（栗原地区）	県営中山間地域総合整備事業（水路整備）	1,100	0		未周知、踏査のみ
		三瀬地区（藤の原地区）	県営中山間地域総合整備事業（水路整備）	800	0		吉野山遺跡に隣接、踏査のみ
		三瀬地区（井出野西地区）	県営中山間地域総合整備事業（水路整備）	900	0		未周知、踏査のみ
		三瀬地区（宮の口地区）	県営中山間地域総合整備事業（水路整備）	600	0		杜氏館跡、踏査のみ
		三瀬地区（獅子山地区）	県営中山間地域総合整備事業（農道整備）	1,300	0		未周知、踏査のみ
		三瀬地区（小切地区）	県営中山間地域総合整備事業（農道整備）	3,300	0		未周知、踏査のみ
		三瀬地区（宮崎地区）	県営中山間地域総合整備事業（農道整備）	3,500	0		未周知、踏査のみ
		三瀬地区（岸下地区）	県営中山間地域総合整備事業（農道整備）	1,900	0		未周知、踏査のみ
		三瀬地区（芹田地区）	県営中山間地域総合整備事業（農道整備）	2,100	0		土師遺跡に隣接、踏査のみ
		三瀬地区（岩屋地区）	県営中山間地域総合整備事業（農道整備）	1,000	0		小竹遺跡に隣接、踏査のみ
		三瀬地区（金柴山地区）	県営中山間地域総合整備事業（農道整備）	1,600	0		吉野山遺跡に隣接、踏査のみ
		三瀬地区（船石地区）	県営中山間地域総合整備事業（農道整備）	1,500	0		笹ノ瀬遺跡・浦田遺跡に隣接、踏査のみ
		三瀬地区（大谷地区）	県営中山間地域総合整備事業（ほ場整備）	32,000	0	確認されなかった	浦田遺跡・野田遺跡に隣接
	基山町	基山地区	生活環境保全林整備	530,000	0		特別史跡基肄城跡、踏査のみ
	みやき町	三養基地区	県営かんがい排水事業〔中原東部線（管水路埋設）〕	9,000	0		大園遺跡、踏査のみ
		三養基地区	県営かんがい排水事業〔中原西部線（管水路埋設）〕	30,300	0		高柳七本谷遺跡ほか、踏査のみ
		丸山地区	復旧治山	1,000	0		未周知、踏査のみ
		北茂安地区	農村振興総合整備統合補助事業〔農道整備　農道9号（拡幅AS舗装）〕	1,600	0		未周知、踏査のみ
		北茂安地区	農村振興総合整備統合補助事業〔農業集落道整備　集道4号（拡幅AS舗装）〕	2,300	0		二の幡古墳群、踏査のみ
		中原地区	農村振興総合整備統合補助事業〔農業集落道整備　集道2号（拡幅AS舗装）〕	700	0		町南遺跡、踏査のみ
		中原地区	農村振興総合整備統合補助事業〔農業集落道整備　集道3号（拡幅AS舗装）〕	800	0		町南遺跡、踏査のみ
		北茂安地区	農村振興総合整備統合補助事業〔農業集落排水施設整備　集排2号（三面水路）〕	1,300	0		未周知、踏査のみ
		北茂安地区	農村振興総合整備統合補助事業〔農業用用排水施設整備　農排12号（三面水路）〕	800	0		未周知、踏査のみ
	上峰町	三養基地区	県営かんがい排水事業〔中原西部線（管水路埋設）〕	30,300	0		堤五本松遺跡ほか、踏査のみ
		上峰地区	県営土地改良総合整備事業（用排水路ライニング工）	3,200	0		未周知、踏査のみ
		上峰地区	県営土地改良総合整備事業（用水路工）	900	0		未周知、踏査のみ
		上峰地区	県営土地改良総合整備事業（農道工）	2,000	0		未周知、踏査のみ
		上峰地区	農村総合整備事業〔農道3号（道路工）〕	1,100	0		船石遺跡、踏査のみ
		上峰地区	農村総合整備事業〔集道7号（道路工）〕	1,100	0		未周知、踏査のみ
		上峰地区	農村総合整備事業〔水環3号（護岸工）〕	1,400	0		江迎城跡、踏査のみ
		上峰地区	農村総合整備事業〔水環4号（護岸工）〕	1,900	0		未周知、踏査のみ
		上峰地区	農村総合整備事業〔水環5号（護岸工）〕	1,100	0		未周知、踏査のみ
		上峰地区	農村総合整備事業〔緑化2号（修景工）〕	2,000	0		樫寺遺跡、踏査のみ
		鎮西山地区	生活環境保全林整備	50,000	0		鎮西山南麓古墳群、踏査のみ
	小計			758,400	0		
Ⅱ佐賀西部地区	佐賀市	佐賀東部地区	県営かんがい排水事業（城原金立線）	21,000	120	中世の集落跡	浦田遺跡ほか
		佐賀南部地区	県営地域水田農業支援緊急整備事業	42,000	0		金原城跡ほか、踏査のみ
		筑後川下流地区	筑後川下流農業水利事業（城原金立線吐水槽他工事）	2,000	0		浦田遺跡ほか、踏査のみ
		筑後川下流地区	筑後川下流農業水利事業（城原金立線神籠石工区工事）	2,000	0		浦田遺跡ほか、踏査のみ
		佐賀中部地区	国営総合農地防災事業（市の江川副幹線水路工事）	6,900	0		平尾三本杉遺跡ほか、踏査のみ
		佐賀中部地区	国営総合農地防災事業（嘉瀬排水路工事）	5,600	0		未周知、踏査のみ
		金立山線	森林環境保全整備事業	4,000	0		未周知、踏査のみ

	市町村名	地　区　名	事　　業　　名	確認調査対象面積（㎡）	遺跡の面　積（㎡）	遺跡の性格	備　　考
Ⅱ佐賀西部地区	多久市	堤口地区	復旧治山	51,000	0		未周知、踏査のみ
		筑後川下流地区（多久1工区）	筑後川下流農業水利事業（多久導水路）	1,700	0		未周知、踏査のみ
	東与賀町	大授搦・大搦地区	県営経営体育成基盤整備事業	2,700	0		未周知、踏査のみ
		佐賀中部地区	県営地盤沈下対策事業	1,900	0		未周知、踏査のみ
		佐賀中部地区	国営総合農地防災事業（東与賀1号排水路工事）	1,100	0		未周知、踏査のみ
		佐賀中部地区	国営総合農地防災事業（東与賀排水樋管建設工事）	1,000	0		未周知、踏査のみ
		佐賀中部地区	国営総合農地防災事業（東与賀排水機場ポンプ設備建設工事）	3,000	0		未周知、踏査のみ
		佐賀中部地区	国営総合農地防災事業（東与賀排水機場上屋建築工事）	3,000	0		未周知、踏査のみ
		佐賀中部地区	国営総合農地防災事業（東与賀排水機場除塵機製作据付工事）	1,000	0		未周知、踏査のみ
	川副町	佐賀中部地区	県営地盤沈下対策事業	1,100	0		未周知、踏査のみ
		佐賀中部地区	国営総合農地防災事業（市の江川副幹線水路工事）	6,900	0		未周知、踏査のみ
		大詫間地区	県営地域水田農業支援緊急整備事業	65,000	0		未周知、踏査のみ
	諸富町	諸富地区	県営地域水田農業支援緊急整備事業	72,000	0		三重本村遺跡ほか、踏査のみ
	久保田町	久保田地区	県営地域水田農業支援緊急整備事業	55,000	0		新田遺跡、踏査のみ
	大和町	佐賀中部地区	国営総合農地防災事業（川上頭首工建設工事）	3,000	0		未周知、踏査のみ
		佐賀中部地区	国営総合農地防災事業（右岸幹線水路工事）	5,700	0		東山田一本杉遺跡ほか、踏査のみ
		佐賀中部地区	国営総合農地防災事業（市の江川副幹線水路工事）	6,900	0		福田遺跡、踏査のみ
		佐賀中部地区	国営総合農地防災事業（大井手幹線水路工事）	3,700	0		尼寺四本松遺跡ほか、踏査のみ
		筑後川下流地区	筑後川下流農業水利事業（佐賀西部高域線送水機場）	3,200	0		東山田一本杉遺跡ほか、踏査のみ
		筑後川下流地区	筑後川下流農業水利事業（佐賀西部高域線吐水槽）	4,300	0		小隈山古墳、踏査のみ
		筑後川下流地区（大和工区）	筑後川下流農業水利事業（佐賀西部高域線）	5,000	0		東山田一本杉遺跡ほか、踏査のみ
		筑後川下流地区（東山田工区）	筑後川下流農業水利事業（佐賀西部高域線）	5,000	0		東山田一本杉遺跡ほか、踏査のみ
	富士町	富士南部地区	県営中山間地域総合整備事業〔水路（下小副川1号）〕	1,200	0		谷田城跡に近接、踏査のみ
		富士南部地区	県営中山間地域総合整備事業〔水路（上小副川1号）〕	800	0		未周知、踏査のみ
		富士南部地区	県営中山間地域総合整備事業〔水路（上小副川2号）〕	600	0		未周知、踏査のみ
		富士南部地区	県営中山間地域総合整備事業〔農道（杉山1号）〕	3,800	0		未周知、踏査のみ
		富士南部地区	県営中山間地域総合整備事業〔農道（鎌原1号）〕	1,000	0		未周知、踏査のみ
		富士南部地区	県営中山間地域総合整備事業〔農道（鎌原2号）〕	2,800	0		未周知、踏査のみ
		富士南部地区	県営中山間地域総合整備事業〔農道（大野原2号）〕	1,700	0		未周知、踏査のみ
		富士南部地区	県営中山間地域総合整備事業〔農道（大野原3号）〕	1,000	0		未周知、踏査のみ
		富士南部地区	県営中山間地域総合整備事業〔農集排（古湯水路）〕	1,100	0		古湯五本松遺跡に近接、踏査のみ
		富士南部地区	県営中山間地域総合整備事業〔活性化施設（市川）〕	2,000	0		未周知、踏査のみ
		富士南部地区	県営中山間地域総合整備事業〔施設間連絡道（市川）〕	1,200	0		市川遺跡、踏査のみ
		富士南部地区	県営中山間地域総合整備事業〔むらづくり基盤（市川）〕	2,000	0		市川遺跡、踏査のみ
		八久保地区	予防治山	1,000	0		未周知、踏査のみ
		鬼俵柚木谷線	県単林道事業	12,000	0		未周知、踏査のみ
		長谷線	県単林道事業	3,000	0		未周知、踏査のみ
	小城市	佐賀中部地区	県営地盤沈下対策事業	6,000	0		深川南遺跡、踏査のみ
		上砥川地区	筑後川下流白石平野（一期）農業水利事業（開削）	1,200	0		未周知、踏査のみ
		下砥川地区	筑後川下流白石平野（一期）農業水利事業（推進工　JR横断）	500	0		未周知、踏査のみ
		下砥川地区	筑後川下流白石平野（一期）農業水利事業（開削）	3,600	0		未周知、踏査のみ
		筑後川下流地区	筑後川下流農業水利事業（多久導水路送水機場）	2,400	0		未周知、踏査のみ
		筑後川下流地区（三里工区）	筑後川下流農業水利事業（多久導水路）	900	0		久蘇遺跡、踏査のみ
		佐賀中部地区	国営総合農地防災事業（右岸幹線水路工事）	5,700	0		未周知、踏査のみ
		佐賀中部地区	国営総合農地防災事業（西水東水幹線水路工事）	5,100	0		未周知、踏査のみ
		佐賀中部地区	国営総合農地防災事業（久保田幹線水路工事）	1,800	0		未周知、踏査のみ
		佐賀中部地区	国営総合農地防災事業（芦刈1号排水路工事）	700	0		未周知、踏査のみ
		佐賀中部地区	国営総合農地防災事業（牛津2号排水路工事）	2,800	0		未周知、踏査のみ
		佐賀中部地区	国営総合農地防災事業（三日月1号排水路工事）	2,100	0		未周知、踏査のみ
		馬場下地区	予防治山	3,000	0		西の谷六角遺跡、踏査のみ
	小計			457,700	120		

	市町村名	地　区　名	事　　業　　名	確認調査対象面積（㎡）	遺跡の面　積（㎡）	遺跡の性格	備　　考
Ⅲ佐賀南部地区	武雄市	川登地区	地域水田農業支援緊急整備事業	20,000	0		下館遺跡ほか、踏査のみ
		川内地区	農業集落排水資源循環統合補助事業（処理場敷地造成・建築）	2,000	0		未周知、踏査のみ
		川内地区	農業集落排水資源循環統合補助事業（管路埋設工事）	1,300	0		未周知、踏査のみ
		御船山地区	地域防災対策総合治山	10,000	0		武雄城跡、踏査のみ
	鹿島市	多良岳5期地区	広域営農団地農道整備事業〔農道（橋梁・側路床）工事〕	1,500	0		未周知、踏査のみ
		北鹿島地区	地域水田農業支援緊急整備事業（暗渠排水工事）	85,000	0		常広城跡ほか、踏査のみ
		鹿島地区	県営中山間地域総合整備事業（営農飲雑用水施設）	2,000	0		未周知、踏査のみ
		鹿島地区	県営中山間地域総合整備事業（生態系保全施設等）	3,600	0		未周知、踏査のみ
		浄土山線	鹿島県有林作業道開設事業	4,000	0		未周知、踏査のみ
		掛橋地区	保安林管理道整備	600	0		未周知、踏査のみ
		筒口地区	復旧治山（火山）	3,000	0		未周知、踏査のみ
		狩集地区	復旧治山（火山）	3,000	0		未周知、踏査のみ
		尾崎地区	復旧治山（火山）	2,000	0		未周知、踏査のみ
		大野地区	復旧治山（火山）	4,000	0		未周知、踏査のみ
		広平地区	復旧治山（火山）	4,000	0		未周知、踏査のみ
		中尾地区	予防治山（火山）	1,000	0		池田遺跡、踏査のみ
	山内町	大野地区	農業集落排水資源循環統合補助事業（管路工）	1,900	0		阿拾利遺跡ほか、踏査のみ
		大野地区	農業集落排水資源循環統合補助事業（処理施設工）	2,000	0		未周知、踏査のみ
		乳待坊地区	復旧治山	2,000	0		未周知、踏査のみ
		前平地区	予防治山	2,000	0		未周知、踏査のみ
		板ノ川内～日ノ峯線	森林環境保全整備事業	12,000	0	確認されなかった	未周知
		小川内線	森林環境保全整備事業	12,000	0		平野遺跡、踏査のみ
	江北町	江北地区	地域水田農業支援緊急整備事業	110,000	0		焼石遺跡ほか、踏査のみ
		惣領分地区	筑後川下流白石平野（一期）農業水利事業（開削）	1,400	0		未周知、踏査のみ
		八町地区	筑後川下流白石平野（一期）農業水利事業（開削）	8,700	0		未周知、踏査のみ
	大町町	大町地区	筑後川下流白石平野（二期）農業水利事業（開削）	800	0		未周知、踏査のみ
		下大町地区	筑後川下流白石平野（二期）農業水利事業（開削）	700	0		未周知、踏査のみ
		小通地区	筑後川下流白石平野（二期）農業水利事業（開削）	800	0		未周知、踏査のみ
	北方町	橋下地区	地域水田農業支援緊急整備事業	16,000	0		貝良木遺跡ほか、踏査のみ
		北方地区	地域水田農業支援緊急整備事業	32,000	0		下次遺跡ほか、踏査のみ
	白石町	白石地区	地域水田農業支援緊急整備事業	199,000	0		喜佐木遺跡ほか、踏査のみ
		牛屋東分地区	農業集落排水資源循環統合補助事業	6,900	0		未周知、踏査のみ
	太良町	伊福地区	水源流域地域保全	40,000	0		矢答遺跡、踏査のみ
		中山地区	予防治山（火山）	2,000	0		未周知、踏査のみ
		風配高原線	森林環境保全整備事業	30,000	0		未周知、踏査のみ
		大野日当線	森林環境保全整備事業	10,000	0		未周知、踏査のみ
	塩田町	塩田東部地区	経営体育成基盤整備事業〔用排水路（ライニング）工〕	5,100	0		大黒町遺跡ほか、踏査のみ
	嬉野町	常広地区	予防治山	1,000	0		未周知、踏査のみ
		斧研地区	予防治山	2,000	0		未周知、踏査のみ
		上不動線	森林環境保全整備事業	10,000	0		未周知、踏査のみ
	小計			655,300	0		
Ⅳ佐賀北部地区	伊万里市	松浦3期地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業（農道工）	3,700	0		未周知、踏査のみ
		伊万里地区	県営地域水田農業支援緊急整備事業	18,500	0		木須崎遺跡ほか、踏査のみ
		野々頭地区	水源流域地域保全	21,000	0		未周知、踏査のみ
		大平地区	ため池等整備事業（堤体工）	600	0		未周知、踏査のみ
		川原地区	復旧治山	2,000	0		未周知、踏査のみ
		中古場地区	予防治山	1,000	0		未周知、踏査のみ
		腰岳地区	予防治山	3,000	0	確認されなかった	腰岳遺跡群
		山口地区	予防治山	3,000	0		未周知、踏査のみ
		水ノ元地区	予防治山	10,000	0		未周知、踏査のみ



第1図　平成17年度県内遺跡確認調査実施地区位置図

表2　佐賀県内遺跡確認調査地区一覧
（平成17年度実施）

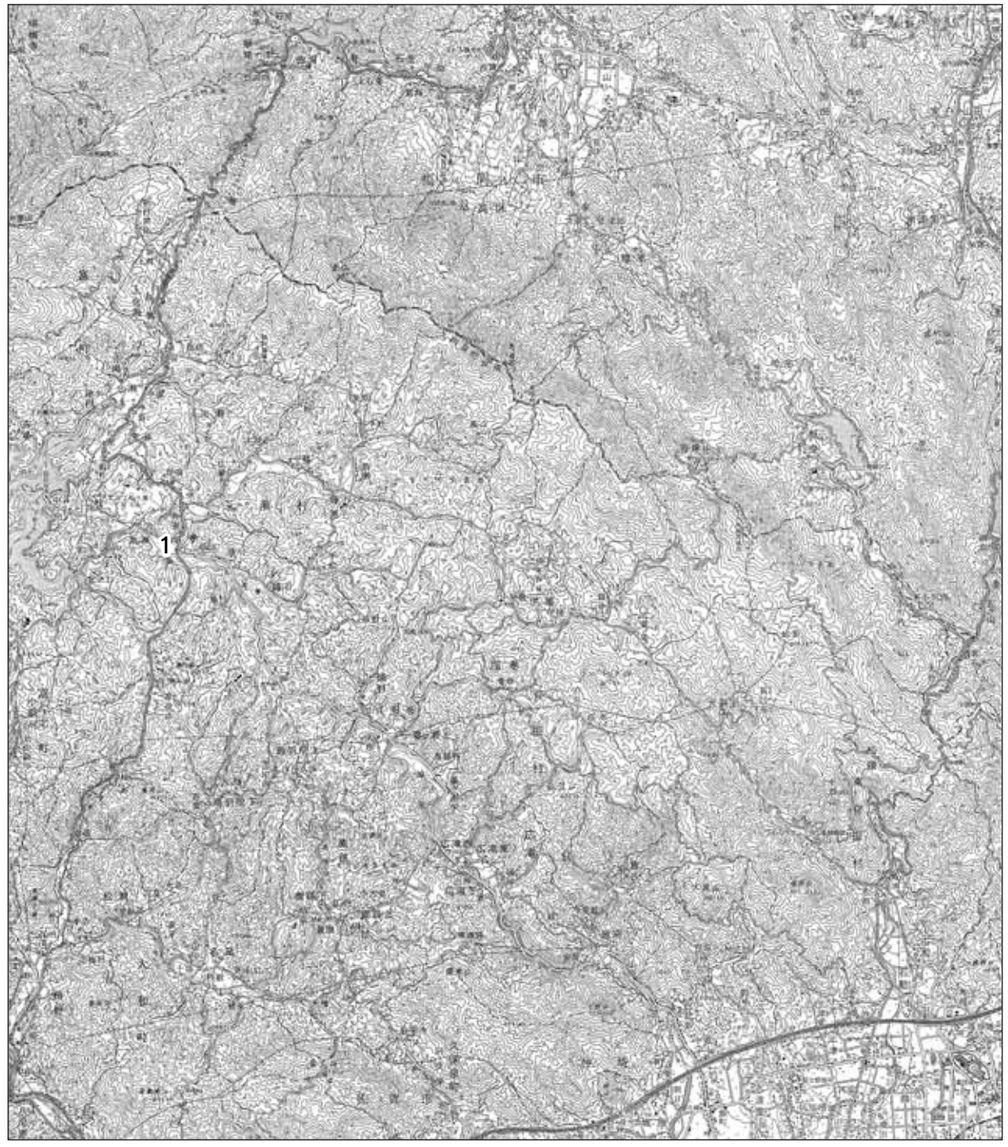
確認調査地区	**農林業基盤整備事業**
	佐賀東部地区
	1．三瀬村（三瀬地区）
	佐賀西部地区
	2．佐賀市（佐賀東部地区）
	佐賀南部地区
	3．山内町（板の川内～日ノ峯線）
	佐賀北部地区
	4．伊万里市（腰岳地区）
	佐賀上場地区
	該当なし
	その他公共事業
	5．東脊振村（五ヶ山ダム地区）
	6．富士町（嘉瀬川ダム地区）

	市町村名	地　区　名	事　　業　　名	確認調査対象面積（㎡）	遺跡の面　積（㎡）	遺跡の性格	備　　考
Ⅳ佐賀北部地区	伊万里市	峰地区	地すべり防止	20,000	0		未周知、踏査のみ
		川向地区	地すべり防止	10,000	0		腰岳遺跡群、踏査のみ
		畑川内地区	渓流等県土保全緊急対策	2,000	0		未周知、踏査のみ
		城地区	渓流等県土保全緊急対策	1,000	0		未周知、踏査のみ
		大谷地区	渓流等県土保全緊急対策	3,000	0		未周知、踏査のみ
		滝野線1工区	道整備交付金事業	4,000	0		未周知、踏査のみ
		滝野線3工区	道整備交付金事業	6,000	0		未周知、踏査のみ
		大川眉山線1工区	森林環境保全整備事業	6,000	0		未周知、踏査のみ
		大川眉山線2工区	森林環境保全整備事業	5,000	0		未周知、踏査のみ
		大川眉山線3工区	森林環境保全整備事業	3,000	0		未周知、踏査のみ
		大川眉山線4工区	森林環境保全整備事業	6,000	0		未周知、踏査のみ
	七山村	樫原地区	元気な地域づくり交付金事業（舗装工）	3,200	0		未周知、踏査のみ
		松ノ元地区	渓流等県土保全緊急対策	2,000	0		未周知、踏査のみ
		広敷地区	県営治山	1,000	0		未周知、踏査のみ
	有田町	岩崎地区	予防治山	1,000	0		未周知、踏査のみ
		中開地区	予防治山	1,000	0		未周知、踏査のみ
	西有田町	黒木地区	ため池等整備事業（提体工）	500	0		未周知、踏査のみ
		広瀬山地区	復旧治山	2,000	0		未周知、踏査のみ
		竹の上地区	予防治山	10,000	0		未周知、踏査のみ
		風吹地区	予防治山	2,000	0		腰岳遺跡群、踏査のみ
		館中地区	予防治山	2,000	0		未周知、踏査のみ
		大木牧地区	予防治山	3,000	0		未周知、踏査のみ
		井手平地区	予防治山	1,000	0		未周知、踏査のみ
	小計			157,500	0		
Ⅴ佐賀上場地区	唐津市	大野地区	元気な地域づくり交付金事業（暗渠排水）	85,000	0		未周知、踏査のみ
		本門地区	さが農業農村振興整備事業（区画整理）	6,400	0		平之遺跡、踏査のみ
		大谷地区	ため池等整備事業	2,000	0		未周知、踏査のみ
		鏡久里3期地区	ため池等整備事業（用排水施設　水路）	1,800	0		未周知、踏査のみ
		馬場野地区	ため池等整備事業（用排水施設　水路）	2,500	0		未周知、踏査のみ
		加部島地区	農業集落排水資源循環統合補助事業（集落道路）	200	0		未周知、踏査のみ
		上大谷地区	復旧治山	2,000	0		未周知、踏査のみ
		東宇土地区	復旧治山	4,000	0		未周知、踏査のみ
		白木々場地区	復旧治山	1,000	0		未周知、踏査のみ
		宇土地区	復旧治山	1,000	0		未周知、踏査のみ
		桃良地区	復旧治山	5,000	0		未周知、踏査のみ
		野々平地区	予防治山	2,000	0		未周知、踏査のみ
		鶴地区	予防治山	1,000	0		未周知、踏査のみ
		岩本地区	予防治山	1,000	0		未周知、踏査のみ
		平山地区	予防治山	2,000	0		未周知、踏査のみ
		太良地区	予防治山	2,000	0		未周知、踏査のみ
		緑山地区	予防治山	2,000	0		未周知、踏査のみ
		佐里地区	地すべり防止	10,000	0		未周知、踏査のみ
		菜畑地区	県営治山	1,000	0		未周知、踏査のみ
		入野地区	県営治山	1,000	0		未周知、踏査のみ
		陣の山線2工区	森林環境保全整備事業	4,000	0		未周知、踏査のみ
		陣の山線3工区	森林環境保全整備事業	4,000	0		未周知、踏査のみ
		向野線	森林環境保全整備事業	7,000	0		未周知、踏査のみ
		塩木線	森林環境保全整備事業	10,000	0		伊岐佐古墳群、踏査のみ
	玄海町	田代地区	元気な地域づくり交付金事業（路盤工）	2,800	0		未周知、踏査のみ
		藤ノ平地区	地域用水環境整備統合補助事業（親水・景観保全施設、利用保全施設）	20,000	0		未周知、踏査のみ
	小計			180,700	0		
総　計				2,209,600	120		

Ⅱ．平成17年度実施の文化財確認調査の概要

［1］ 農林業基盤整備事業等に係る文化財確認調査

1．佐賀東部地区の調査



第２図　佐賀東部地区調査区位置図（S=1:100,000）

1　県営中山間地域総合整備事業　三瀬地区（三瀬村）

（1）三瀬村（第3図、図版1）

調査対象地区名　　**三瀬地区（県営中山間地域総合整備事業）**

調査対象地所在地　　佐賀県佐賀市三瀬村杠ほか

調査対象面積　　32,000㎡（調査面積　264㎡）

調査担当者　　佐賀市育委員会　文化財課文化財係　古賀章彦

調査期間　　平成17年12月12日～平成17年12月16日（のべ4日）

調査対象地区の立地　調査対象地の標高は390ｍを測り、北及び南を標高500ｍほどの山に挟まれた谷部に位置する。現在は南西方向に流れる嘉瀬川の北側に開かれた棚田として利用されている。

周辺の遺跡及び遺跡の内容　今回の対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、北側や南側には縄文時代の遺跡として周知されている浦田遺跡や中世の遺跡として周知されている笹ノ瀬遺跡がある。

調査方法　対象地内33箇所に試掘坑（トレンチ）を設定した。掘削機により表土の除去を行い、人力による精査を行った。

調査内容　**（検出遺構）**遺構は検出されなかった。

（出土遺物）遺物は確認されなかった。

所見・その他　調査の結果、遺構・遺物ともに検出されなかった。よって、改めての調査等は必要ないものと考える。

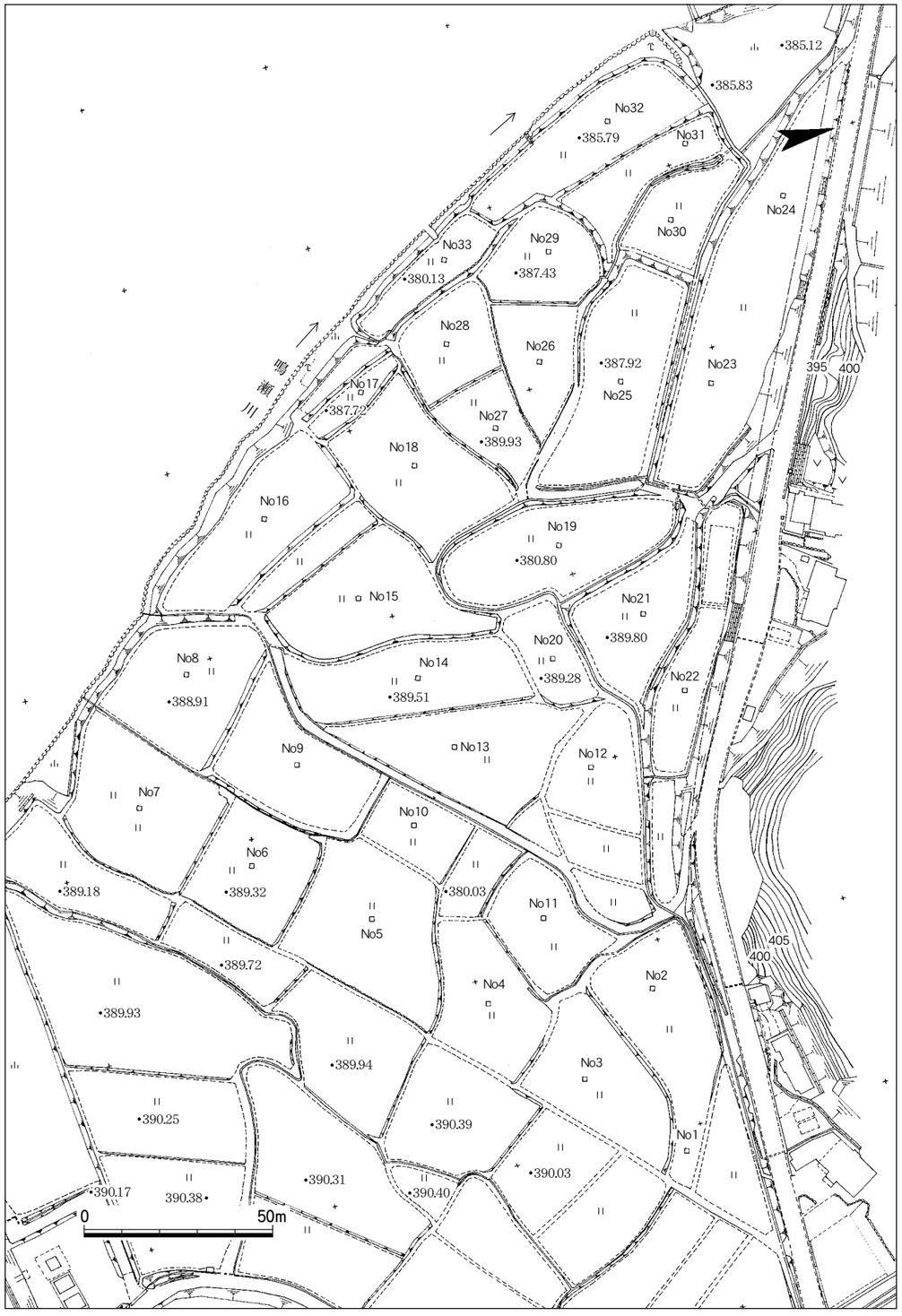
1　調査対象地区全景（東から）

2　調査状況

3　No.17 トレンチ土層断面

4　No.22 トレンチ土層断面（東から）

図版1　三瀬村：県営中山間地域総合整備事業　三瀬地区（大谷地区）



第3図　三瀬村：県営中山間地域総合整備事業　三瀬地区トレンチ配置図

２．佐賀西部地区の調査

第４図　佐賀西部地区調査区位置図（S=1:100,000）

1　佐賀東部地区　城原金立線（佐賀市）

（2）佐賀市（第5図、図版2・3）

調査対象地区名　**筑後川下流農業水利事業（城原金立線）**

開発事業者　九州農政局筑後川下流農業水利事務所

開発目的　農業用水管埋設工事

開発の届出日　平成18年3月10日（17筑務第717号）

調査対象地所在地　佐賀県佐賀市久保泉大字川久保字馬責馬場地先

調査対象面積　2,640㎡（調査面積　78㎡）

調査担当者　佐賀県文化課文化財指導担当　樋口秀信、白木原　宜

調査期間　平成18年3月23日、3月27日

調査対象地区の立地　調査対象地区は、周知の埋蔵文化財包蔵地である浦田遺跡にあたり、帯隈山神籠石が巡る東側の山地と関行丸古墳が立地する西側の低丘陵の間の谷部（小河川による開析谷状の地形）に位置する。一部、上記低丘陵の東の縁辺にかかる。

周辺の遺跡及び遺跡の内容　調査対象地区の東側の山地には史跡帯隈山神籠石が所在する。また、西側の低丘陵上には佐賀県史跡関行丸古墳が所在する。帯隈山神籠石は、帯隈山から天童岳、清兵衛山にかけ、尾根上を地形にそって複雑に屈曲しながら巡っている。途中、谷を渡る箇所については水門を設けていたと推定されている。全体としては、2・3の低丘陵を取り込んだ馬蹄形をなす。列石の用材は花崗岩で、高さ60㎝前後の直方体に切りそろえられたものである。昭和26年に国史跡に指定されている。関行丸古墳は全長55ｍの前方後円墳で、金銅製冠帽・三環鈴が出土した初期横穴式石室を主体部とする。昭和47年に県史跡に指定されている。

調査方法　幅1～2ｍのトレンチを任意に設定し、掘削機および人力（職員）により調査を行った。調査対象地に12本のトレンチを設定し調査を行った。

各トレンチの概要

No.1 トレンチ

アスファルト・砂利の下位からは、青灰白色、暗褐色の客土が、さらに下位からは暗褐色の地山が出土した。遺構・遺物は確認されなかった。

No.2 トレンチ

アスファルト・砂利・真砂土の下位から大量の鉄筋コンクリート等が出土し、掘削不能になったため調査を中止した。調査中に遺物は確認されなかった。

No.3 トレンチ

アスファルト・砂利の直下から暗渠が露出したため、調査を中断した。

No.4 トレンチ

アスファルト・砂利・真砂土の下位から、青灰色土、鉄筋コンクリートガラ等が出土した。その下位からは、黒褐色土・暗灰色砂等の客土を経て岩盤（花崗岩風化土）が出土した。遺構・遺物は確認されなかった。

No.5 トレンチ

アスファルト・砂利・真砂土の下位から、青灰色砂質土（客土）を経て、黄褐色荒砂（河川堆積物）が出土した。明確な基盤層はない。遺構・遺物は確認されなかった。

No.6 トレンチ

アスファルト・砂利・真砂土の下位から、コンクリートガラが出土するとともに湧水が始まったため調査を中止した。

No.7 トレンチ

アスファルトおよび道路基礎の下位から造成土（客土）および旧畑の耕作土・造成土が確認された。トレンチ中央部に旧道路跡（？）が南北方向に残存しており、その両側は畑地であったと推定される。遺構は確認されなかった。旧畑の造成土から銅版刷染付片・磁器片が出土した。

No.8 トレンチ

No.7トレンチとほぼ同様で、トレンチ中央部から南北方向の旧道路の路面を確認した。旧道路の幅は50～100㎝である。

No.9 トレンチ

アスファルト・道路基礎および造成土（客土）の下位から厚さ30㎝程度の遺物包含層が確認された。遺物包含層下位の地山からは小穴が確認された。小穴検出面からは土師器片（古墳か）が出土した。

No.10 トレンチ

アスファルト・道路基礎および造成土（客土）の下位から地山（褐色粘質土）が検出されたが遺構は確認されなかった。

No.11 トレンチ

アスファルト・道路基礎および造成土（客土）の下位から遺物包含層が確認された。遺物包含層は傾斜地に堆積している。包含層の下位にはNo.9・No.10・No.12トレンチ同様、遺構検出面が確認されるものと考えられる。

No.12 トレンチ

アスファルト・道路基礎および造成土（客土）の下位から厚さ15㎝程度の遺物包含層が確認された。遺物包含層下位の地山からは小穴が確認された。

調査内容　**（検出遺構）**　小穴

（出土遺物）　古墳時代の土師器

所見・その他　調査の結果、No.2～No.6トレンチにおいては、基盤面は確認されずコンクリート廃材とともに一部に河川堆積物が確認されており、小河川の影響による開析谷であったことがうかがえる。No.1およびNo.7～No.12トレンチは、西側の低丘陵の縁辺にあたり、一部のトレンチを除き地山が確認されるとともに遺構および遺物包含層が確認されたと考える。

文化財保護の観点から、工事については協議が必要であると思量する。

1　調査区遠景（南から）

2　No.8トレンチ土層（南から）

図版2　佐賀市：筑後川下流農業水利事業（城原金立線）①

1　No.8トレンチ土層（東から）

2　No.9トレンチ（南から）

3　No.10トレンチ（南から）

4　No.10トレンチ土層（西から）

5　No.11トレンチ上層（南から）

6　No.11トレンチ上層土層（西から）

7　No.12トレンチ遺構検出面（南から）

8　No.12トレンチ遺構検出面土層（西から）

図版3　佐賀市：筑後川下流農業水利事業（城原金立線）②

第5図　佐賀市：筑後川下流農業水利事業（城原金立線）トレンチ配置図（S=1:200）

３．佐賀南部区の調査

第６図　佐賀南部地区調査地区位置図（S=1:100,000）

1　森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　板ノ川地区（山内町）

（3）山内町（第7・8・9図、図版4～8、表3）

調査対象地区名　**森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　板ノ川内地区**
工事内容　盛土工事（林道開削工事の残土置場）

調査対象地所在地　佐賀県杵島郡山内町大字宮野24430番地ほか

調査対象面積　3,693㎡（調査面積104㎡）

調査担当者　佐賀県文化課　主査　白木原宜、山内町教育委員会　文化財担当　松瀬京子

調査期間　平成18年1月26日

調査対象地区の立地　調査対象地が所在する板ノ川内地区は、山内町の西南部に位置し、狩立川によって形成された深い谷内に位置する。また有田町に隣接する地域もある。

周辺の遺跡及び遺跡の内容　今回確認調査を実施した板ノ川地区には佐賀県遺跡地図によると、百間窯跡、窯ノ辻窯跡、ダンバギリ窯跡、アキ山窯跡といった近世期の窯跡が存在し、九州陶磁文化館の『肥前地区古窯跡調査報告書』によるとこれら4基の窯跡に加えて百間北窯跡が存在するとされる。

調査方法　調査対象地に5箇所のトレンチ（試掘坑）を設定し、重機・人力により掘削を実施して、遺跡の有無を及び範囲を確認した。

調査内容

（検出遺構） 調査の結果、№1トレンチ・№2トレンチ・№4トレンチにて、百間窯跡北側の谷から狩立川に続くと考えられる流路跡が検出された。

№3トレンチでは、遺構は検出できなかった。

狩立川に近い№5トレンチでは、表土の下はすぐ岩盤で遺構・遺物は確認されなかった。

（出土遺物） 流路跡の最下層部（岩盤の直上）から近世期の大量の磁器片、少量の陶器片・窯道具が出土した。

磁器片には染付・青磁・青磁染付・鉄釉染付・白磁・瑠璃釉・藁灰釉があり、器種として碗（筒形碗・天目碗等）・皿（大皿・中皿・小皿）・壺等がある。陶器片では、長石釉の碗・鉄釉の壺があり、窯道具では、トチン・ハマ・サヤが出土した。

また窯で作られた製品ではなく、窯場で使用されたと考えられる陶器の皿も出土している。

所見・その他

森林環境保全整備事業　林道（板ノ川内～日ノ峯線）開発に伴い、平成18年1月26日、国史跡「肥前磁器窯跡百間窯跡」の近く、板ノ川内地区（未周知）にて確認調査を実施した。

調査の結果、窯場関連施設跡は検出されず、旧流路跡が確認され、流路跡の最下層部（岩盤の直上）から近世期の大量の磁器片、少量の陶器片・窯道具が出土した。

今回の調査対象地である板ノ川内地区（未周知）では、当初窯跡関連遺構の検出が予想されたが検出されなかった。№3トレンチの客土下には岩盤が風化した地山層があり、この層の上面にて遺構が検出される可能性があり、トレンチ周辺を広く面的に調査したが、遺構は確認されなかった。

流路跡が検出された地点の表土下は、黄褐色粘質土（客土）、灰褐色粘質土（圃場の床土）、シルト質の黒灰色粘質土と白色砂と堆積し、その直下は岩盤である。岩盤直上は水性堆積層であり、大型の陶磁器片を大量に含むことから、短期間に堆積したものと考えられる。

今回№1トレンチ・№2トレンチ・№4トレンチにて確認された流路は、周辺の地形や字図に表れた地割等から、百間窯跡と窯ノ辻窯跡（百間北窯跡）の間の谷から流れ出る流路跡であると考えられる。（旧流路推定ライン、第9図参照）

遺物の時期は、筒形碗に高台の内側まで施釉したものと無釉のものが出土していることから、1610年代～1640年代にかけての製品と考えられる。[註1]

今回の調査で遺物が出土した流路跡は、百間窯跡と窯ノ辻窯跡（百間北窯跡）との間の谷からのびており、

今回の調査にて出土した遺物は、両窯跡の製品と考えられる。なお、窯ノ辻窯跡（百間北窯跡）は未調査のため、どちらの窯の製品か断定はできない。

調査後の取扱い

工事内容が掘削を伴わない盛土工事（残土置場）であることから、確認された流路跡や遺物に影響を与えることはないが、国指定史跡百間窯跡、窯ノ辻窯跡（百間北窯跡）の近接地ということもあり、開発者に対しては慎重工事で対応したいと考える。

註１　佐賀県立九州陶磁文化館　副館長大橋康二氏に出土遺物を鑑定していただき、御教示をいただいた。

○板ノ川内地区確認調査出土遺物について

（1）種類

今回の調査では、磁器片、陶器片、窯道具が出土した。

①　磁　器：染付・青磁・青磁染付・鉄釉染付・白磁・瑠璃釉・藁灰釉
　　器形には碗（筒形碗・天目碗等）・皿（大皿・中皿・小皿）・壺等がある。

②　陶　器：長石釉の碗・鉄釉の壺

③　窯道具：トチン・ハマ・サヤ

（2）時期

出土遺物の時期については、おおむね1610年代～1640年代にかけての製品であり、大幅に時代の異なる混入品はない。

年代の根拠は、

①　陶器と磁器の共伴

②　筒形碗に高台施釉と高台無釉ものがあること

①については、1637年の窯場統合を機に肥前（有田）では陶器が姿を消すので、今回出土した陶器の碗は、窯場統合以前の製作と考えられる。

筒形碗は、高台施釉が1610年代～1620年代、高台無釉が1630年代～1640年代にかけての製作である。

磁器生産において、高台施釉の状態が常の状態であり、高台無釉は通常行われない。限られた時期の製作技法である。

高台無釉の製品が生産された背景には、中国の王朝交代により磁器生産が落ち込み、それに反比例して日本（肥前）の磁器生産が増加するためである。大量生産をするうえで、高台を施釉する手間をできるだけ省略し、1つでも多く製作するための工夫である。この傾向は、1644年中国の磁器生産が停止するとその傾向はますます強くなる。特に高台無釉の鉄釉天目茶碗は　1630年代～1650年代にかけて多く作られた製品の1つである。

ただし皿の場合、17世紀の波佐見にて作られたものがある。

（3）出土遺物を製作した窯について

遺物の特徴から百間窯跡の製品と考えられる。

①　細かい貫入のある製品が多いこと。

②　特有の形状

・筒形碗：百間窯は筒形碗の生産に特に力を入れており、青磁の筒形碗を生産するのは百間窯のみ。

・提燈形壺：№11等。口縁部がまっすぐ立ち上がる。

・茶筅形瓶：№20。

なお、地形的には、窯ノ辻遺跡（百間北窯跡）の製品の可能性も考慮されるべきであろう。

（4）主な資料について

①　稜花形大皿：口径40㎝近い大皿にて、口縁部を稜花形に作るものは非常に珍しい。この皿には百間窯跡に特徴的な細かい貫入がみられる。

②　藁灰釉の皿：昭和59年、九州陶磁文化館実施の調査でも出土しているが、当時器形は不明であった。胎土は青磁用の多少灰色がかった土を使用する。通常青磁は釉薬の発色を深めるため、鉄分を含む胎土を使用する。なお藁灰釉の磁器への使用は非常に珍しい。伊万里市餅田窯跡では陶器への藁灰釉の使用が見られる。

③　陶器の皿：窯の製品ではない。使用痕があり窯場にて使用されたと考えられる。この製品は胎土目の跡があることから、窯の製品よりも古手であり、別の場所で作られたものが持ち込まれたと考えられる。

（5）窯ノ辻窯跡と百間北窯跡について

「佐賀県遺跡地図」では板ノ川内地区には窯跡が4基。対して九州陶磁文化館の報告書では窯跡が5基となっている。

今回調査した場所の西側には窯跡が存在しており、「佐賀県遺跡地図」では「窯ノ辻遺跡」、九州陶磁文化館の見解では「百間北窯跡」にあたる。

窯ノ辻遺跡は昭和58年に九州陶磁文化館にて調査がおこなわれており、その調査地点は今回調査した場所から約400ｍ北の地点であり、佐賀県遺跡地図の位置とは異なる。窯ノ辻窯跡調査の際の遺物の傾向として「多種多様ではあるが、小形品（小物）を中心に焼成しており、百間窯とは異なる様相」とある。

また「佐賀県遺跡地図」にて「窯ノ辻遺跡」とされている地点（＝九州陶磁文化館のいう「百間北窯」）にて、山内教育委員会が踏査を行なったところ、出土資料と同様の磁器片が採集されている。（図版5）

①　参考資料1～3：細かい貫入をもつ磁器片

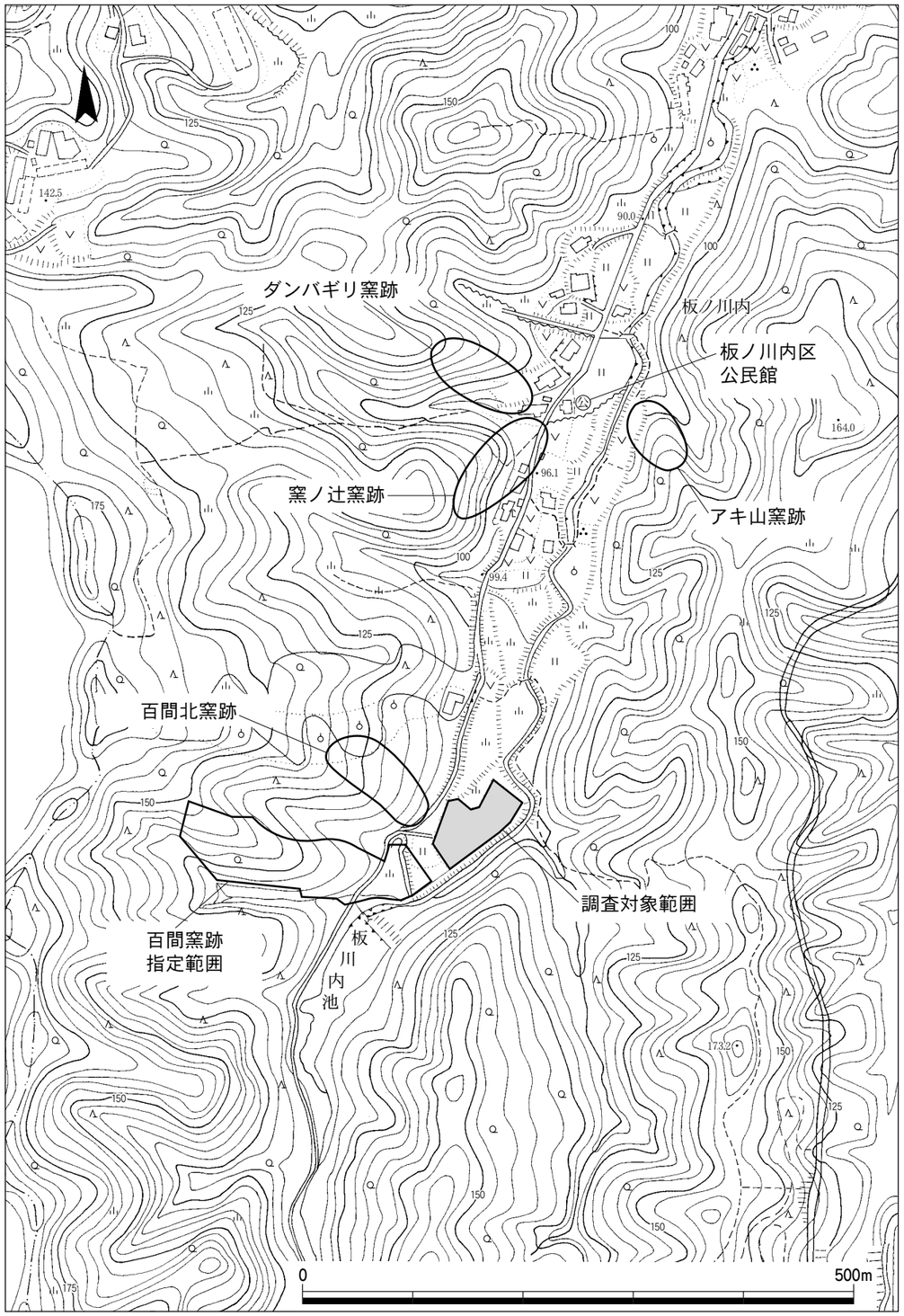
②　参考資料1・2：№4と同様、口縁部が稜花形の磁器片

③　参考資料4～5：藁灰釉製品

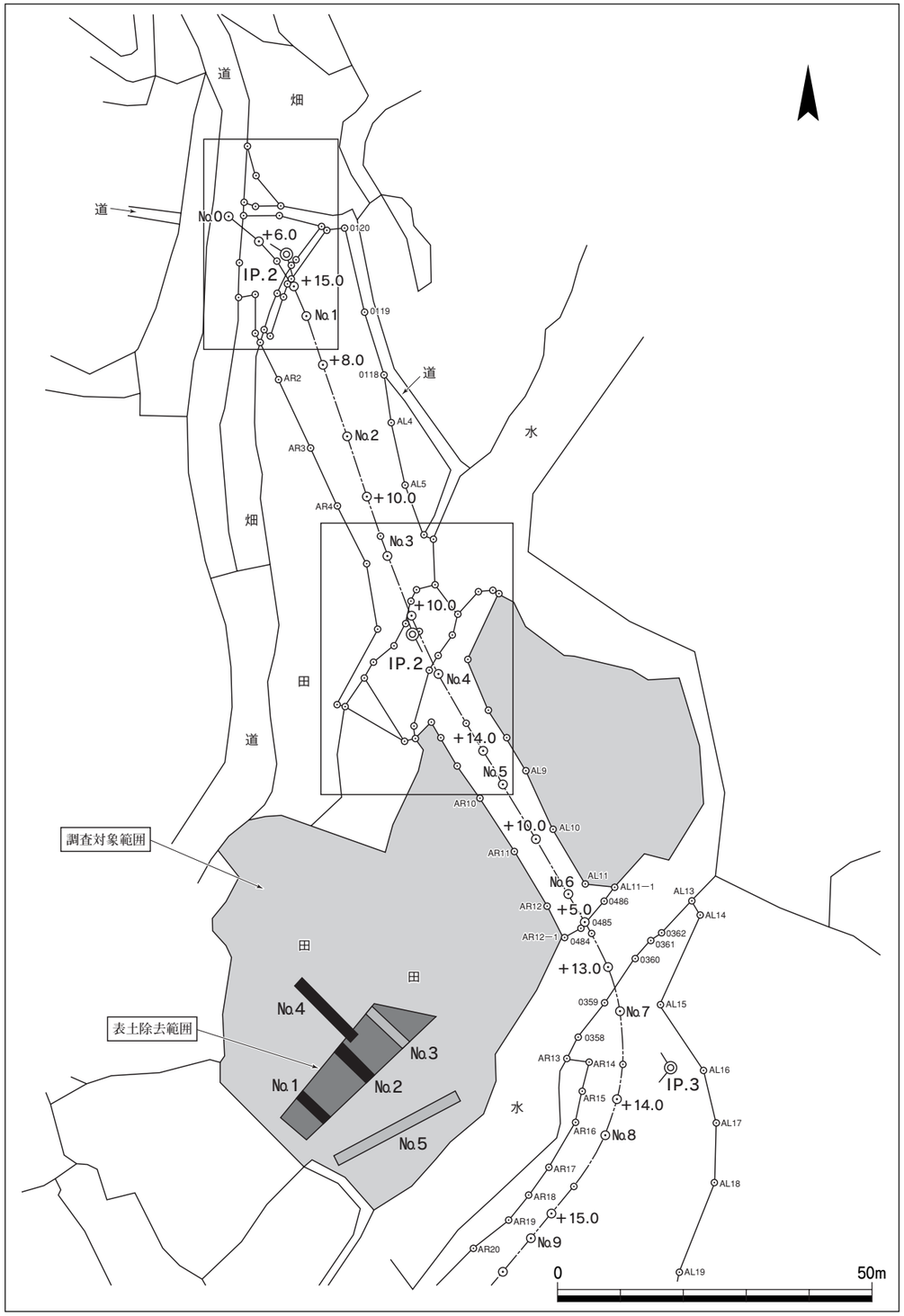
現地での踏査の結果では、表採品の傾向は百間窯跡と類似点がある。調査にて出土した遺物は窯ノ辻遺跡（百間北窯跡）の遺物の可能性も高い。

また、九州陶磁文化館が昭和58年に調査を行った窯ノ辻窯跡の製品と判断することは難しい。

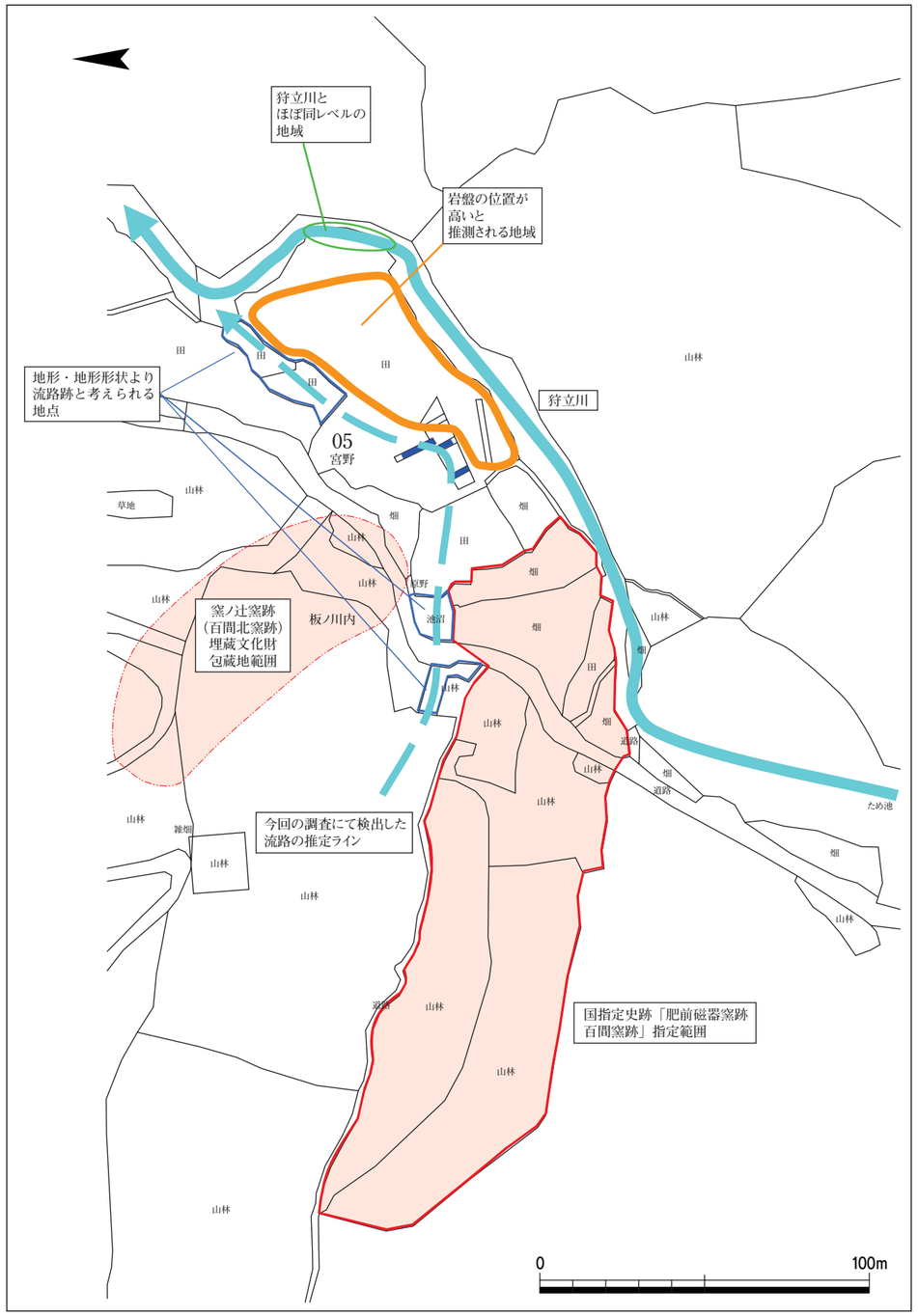
これまで実施された調査結果と佐賀県遺跡地図等の位置図上のズレを再度検討する必要性がある。なお、第7図では、窯跡の名称及び位置については山内町教育委員会案で示している。



第7図　山内町：森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　調査対象地位置図（S=1:5,000）



第8図　山内町：森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　トレンチ配置図



第9図　山内町：森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　検出流路推定図

1　調査区全景

2　表土除去地点（北東から）

3　№1トレンチ（南東から）

4　№2トレンチ（西から）

5　№3トレンチ（南東から）

6　№4トレンチ（南東から）

7　掘削機作業状況

8　確認調査状況

図版4　山内町：森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　板ノ川内地区

参考資料1～3

参考資料1～3

参考資料1

参考資料2

参考資料4～5

参考資料4～5

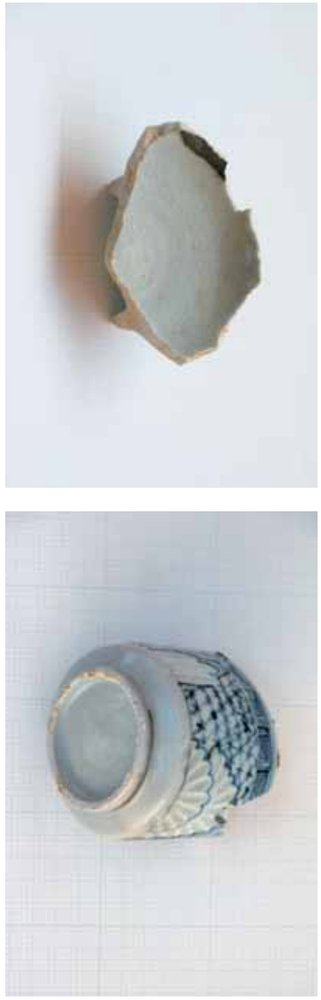
図版5　山内町：森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　板ノ川内地区現地踏査資料（百間北窯跡）

表３－１　山内町：森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　板ノ川内地区確認調査出土遺物一覧表１

遺物番号	遺　跡　名	土　　層	出土年月日	種　　類	器　　種	遺 物 年 代	備　　考
No.1	板ノ川内確認調査	No.1トレンチ　2層	20060126	磁器(?)	碗		鉄釉文様
No.2	板ノ川内確認調査	No.1トレンチ　4層	20060126	磁器(染付)	筒形碗	1610年代～1620年代	筒形碗で高台施釉は1610年代～1620年代。ヘラ彫り
No.3	板ノ川内確認調査	No.1トレンチ　4層	20060126	磁器(染付)	皿		朝鮮的器形。ただし縁の文様は珍しいタイプ。一見すると百間窯跡のとはわからないタイプ。
No.4	板ノ川内確認調査	No.1トレンチ　4層	20060126	磁器(染付)	大皿		口縁部稜花形。大皿では珍しいタイプ。
No.5	板ノ川内確認調査	No.1トレンチ　4層	20060126	磁器(染付)	角皿？		型打ち成形＋ロクロ削り出し
No.6	板ノ川内確認調査	No.2トレンチ　5層	20060126	磁器(染付)	筒形碗	1630年代～1640年代	筒形碗で高台無釉は1630年代～1640年代。筒形碗で高台無釉は百間窯跡のみ。
No.7	板ノ川内確認調査	No.2トレンチ　5層	20060126	磁器(青磁)	筒形碗？		青磁の筒形碗は1630年代より登場、珍しい。本資料は筒形碗にしては高台が大ぶりなので、筒形碗であるかは断言ができない。おそらく1630年代になると筒形碗では高台無釉になるためだと考えられる。線彫り
No.8	板ノ川内確認調査	No.3トレンチ　2層	20060126	磁器	角皿？		型打ち成形
No.9	板ノ川内確認調査	No.4トレンチ　4層	20060126	磁器(染付)	壺		底部が立ち上がった器形が珍しい。百間窯跡に特徴的な提燈形ではない。生掛け。
No.10	板ノ川内確認調査	No.4トレンチ　4層	20060126	磁器(染付)	筒形碗	(1610年代～1620年代)	鳥の文様は珍しい。
No.11	板ノ川内確認調査	No.4トレンチ　4層	20060126	磁器(白磁)	提燈形壺		百間窯跡に特徴的な提燈形。タテのヘラ彫り。生掛け
No.12 No.13 No.14	板ノ川内確認調査	No.4トレンチ　4層	20060126	磁器(藁灰釉)	皿		藁灰釉の使用が非常に珍しい。胎土は磁器、青磁用に調整された土。有田では通常は藁灰釉は使用せず、唐津で使用する。以前の九陶の調査にて破片が出土しているが、器種は不明であった。藁灰釉の使用は伊万里市餅田窯跡にて陶器での使用例がある。見込みの段が朝鮮的特徴。
No.15	板ノ川内確認調査	No.4トレンチ　4層	20060126	磁器(青磁)	皿	1630年代～1640年代	鳥の文様は珍しい。
No.16	板ノ川内確認調査	No.4トレンチ　4層	20060126	磁器(青磁)	香炉？(または線香立？)		通常仏前道具のように内部を見せずに使用する製品は、内側には施釉せず、別の製品を置く。内部の砂目はその痕。

表３－２　山内町：森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　板ノ川内地区確認調査出土遺物一覧表２

遺物番号	遺　跡　名	土　　層	出土年月日	種　　類	器　　種	遺 物 年 代	備　　考
№17	板ノ川内確認調査	№4トレンチ　4層	20060126	磁器(白磁)	壺？		底部が碁笥底のものは17世紀前半、17世紀後半には消滅。
№18	板ノ川内確認調査	№4トレンチ　4層	20060126	磁器(染付)	筒形碗	1630年代～1640年代	高台無釉
№19	板ノ川内確認調査	№4トレンチ　4層	20060126	磁器(染付)	皿		文様が珍しい
№20	板ノ川内確認調査	№4トレンチ　4層	20060126	磁器(染付)	茶筅形瓶		百間窯跡の特徴的な製品
№21	板ノ川内確認調査	№4トレンチ　4層	20060126	磁器(白磁)	香炉	1630年代～1640年代	印花、雷文（写真なし）。以前の九州陶磁文化館の調査でも同タイプ器形のものが出土している。文様は異なる。
№22	板ノ川内確認調査	№4トレンチ　4層	20060126	磁器(染付)	蓋		№24と対の可能性がある
№23	板ノ川内確認調査	№4トレンチ　4層	20060126	磁器(染付)	皿		菊花型菊弁
№24	板ノ川内確認調査	№4トレンチ　4層	20060126	磁器(染付)	蓋付鉢(水指?)		№22と対の可能性がある。内面にも絵付け
№25	板ノ川内確認調査	№4トレンチ　4層	20060126	磁器(白磁)	小杯	1630年代～1640年代	高台無釉
№26	板ノ川内確認調査	№4トレンチ　4層	20060126	磁器(鉄釉染付?)	向付		茶の湯で使用。わざとくぼませる。
№27	板ノ川内確認調査	№4トレンチ　4層	20060126	磁器(鉄釉)	碗	1630年代～1650年代	鉄釉染付？内面に焼成の際についた焦げた痕が残る。この高台無釉鉄釉碗は1640年代に大量に製造される。（1644年代以降、中国の磁器輸出が完全に停止するため。）
№28	板ノ川内確認調査	№4トレンチ　4層	20060126	磁器(鉄釉染付?)	碗		高台無釉。鉄釉染付にて菊の文様がポピュラーではあるが、百間窯跡のみの製造ではない。
№29	板ノ川内確認調査	№4トレンチ　4層	20060126	陶器(長石釉?)	皿		唐津の皿。窯の製品ではなく、窯場の生活にて使用した製品。胎土目（写真なし）。窯の製品よりも古手。
№30	板ノ川内確認調査	№4トレンチ　4層	20060126	磁器(鉄漿)	不明		粘土紐にて成形、ヘラにて削り出し。この時期の特徴あり
№31	板ノ川内確認調査	№4トレンチ　4層	20060126	陶器(鉄釉)	不明		波状文。鉄分を含んだ土、他の製品とまったく胎土が異なる。唐津の陶器製作者の作であろう。
№32	板ノ川内確認調査	№4トレンチ　4層	20060126	陶器(長石釉?)	碗	～1637年代	1637年の窯場の統廃合以後は、有田では生産されなくなる。
№33	板ノ川内確認調査		20060126	磁器(染付)	提燈形壺		百間窯跡に特徴的な提燈形。
№34	板ノ川内確認調査		20060126	磁器(染付)	提燈形壺		百間窯跡に特徴的な提燈形。


№1－1

№1－2

№2－1

№2－2

№2－3

№3－1

№3－2

№4－1

図版6　山内町:森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峯線　板ノ川内地区確認調査出土遺物1

No.4－2　No.6－1　No.7－2　No.9－1
No.4－3　No.6－2　No.7－3　No.9－2
No.5－1　No.6－3　No.8－1　No.10－1
No.5－2　No.7－1　No.8－2　No.10－2
No.11－1　No.12、No.13、No.14－1　No.15－2　No.17－2
No.11－2　No.12、No.13、No.14－2　No.16－1　No.18－1
No.11－3　No.12、No.13、No.14－3　No.16－2　No.18－2
No.11－4　No.15－1　No.17－1　No.19－1

図版7　山内町：森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峰線　板ノ川内地区確認調査出土遺物2

No.19－2　No.21－2　No.23－2　No.25－2
No.20－1　No.22－1　No.24－1　No.26－1
No.20－2　No.22－2　No.24－2　No.27－1
No.21－1　No.23－1　No.25－1　No.27－2
No.28－1　No.29－3　No.30－3　No.32－2
No.28－2　No.29－4　No.31－1　No.33－1
No.29－1　No.30－1　No.31－2　No.34－1
No.29－2　No.30－2　No.32－1

図版8　山内町：森林環境保全整備事業　板ノ川内～日ノ峰線　板ノ川内地区確認調査出土遺物3

４．佐賀北部地区の調査

第10図　佐賀北部地区調査地区位置図（S=1:100,000）

1　予防治山　腰岳地区（伊万里市）

（4）伊万里市（第11図、図版9）

調査対象地区名　**予防治山　腰岳地区**

調査対象地所在地　伊万里市立花町字腰岳102-39ほか2筆

調査対象面積　22,937㎡（谷止工対象部分）

調査担当者　伊万里市教育委員会　生涯学習課　嘱託　柴田　剛

調査期間　平成18年2月20日～平成18年2月23日（のべ2日）

調査対象地区の立地　周知の埋蔵文化財包蔵地である腰岳遺跡群内に位置し、腰岳の中腹に位置する。

周辺の遺跡及び遺跡の内容　周辺には鈴桶遺跡（二里町立花）などの学史的に著名な遺跡が存在する。

調査方法　人力を用いたトレンチ（試掘坑）による調査を行なった。

調査内容　**（検出遺構）**検出遺構なし

（出土遺物）黒曜石の原石（コンテナ約1箱分）

所見・その他　遺構や遺物包含層は確認されなかった。当該地区は地すべり地帯であるため、トレンチ出土の黒曜石は原位置を保った状況では確認されていない。よって、本調査の必要はないと思われる。

調査後の取扱い　工事実施（慎重工事）

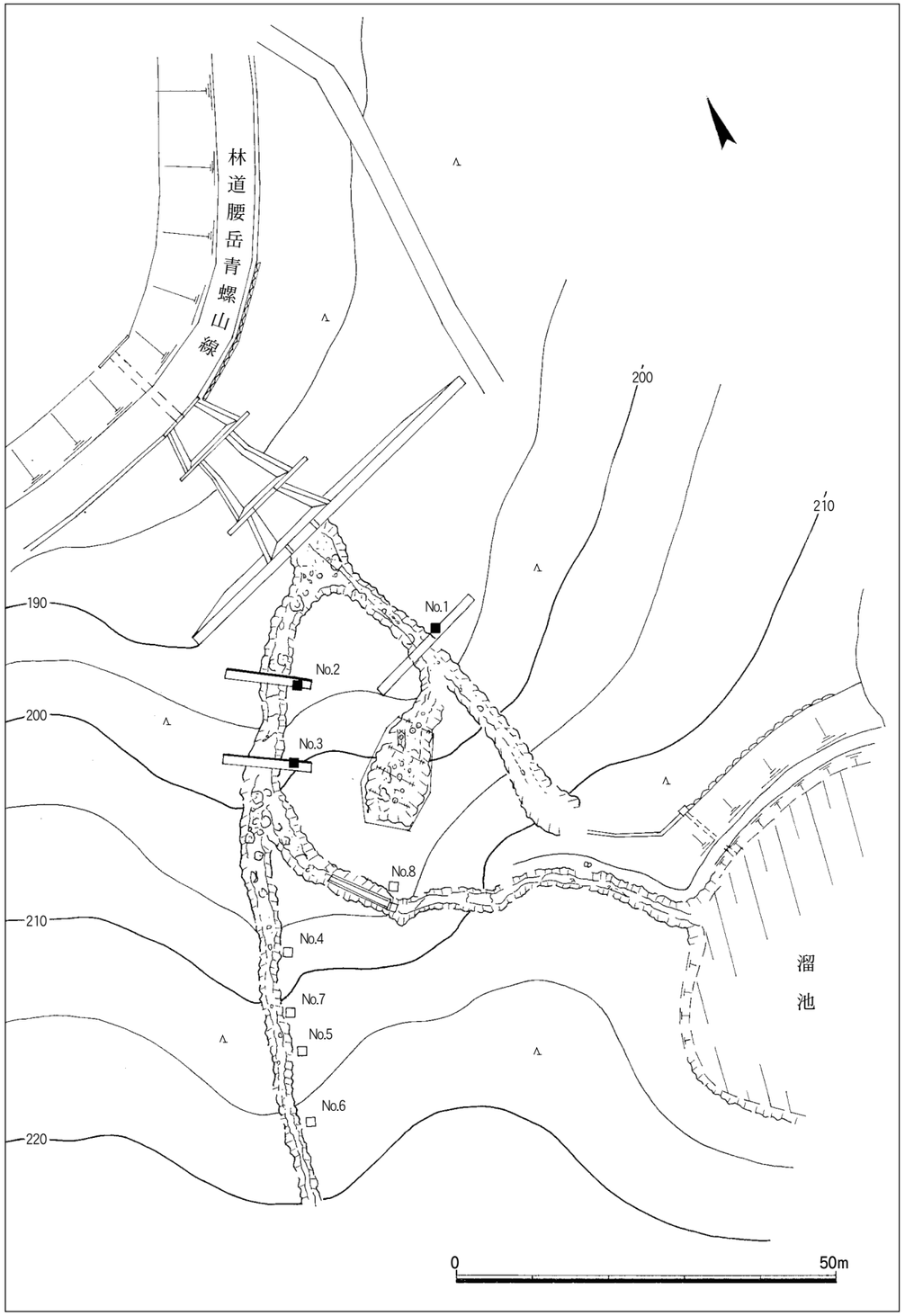
1　確認調査状況

2　№1トレンチ土層

3　№8 トレンチ土層

4　確認調査出土遺物

図版9　伊万里市：予防治山　腰岳地区



第11図　伊万里市：予防治山　腰岳地区トレンチ配置図

［2］ その他公共事業等に係る文化財確認調査

1．那珂川総合開発事業（五ヶ山ダム建設事業）に係る文化財確認調査

（1）東脊振村（第12～18図、図版10～13）

調査対象地区名　**五ヶ山ダム建設事業水没地区　第1地点～第5地点**

調査対象地所在地　神埼郡吉野ヶ里町小川内（旧東脊振村）

調査対象面積　535,000㎡

調査担当者　佐賀県教育委員会文化課　文化財指導担当係長　樋口秀信、同主査　白木原宜

調査期間　平成17年10月24日～11月4日（第1地点）
平成18年 2月24日～ 3月2日（第2地点～第5地点）

調査対象地区の立地　調査対象地は、坂本峠（国道385号線）を福岡県側に下った山間部に所在する。対象地に沿って、福岡県との県境をなす那珂川が流れており、那珂川町を経由して福岡市に流下する。

周辺の遺跡及び遺跡の内容　調査対象地区は、戦国時代から肥前国と筑前国の領土が接していた場所で、特に佐賀鍋島藩と福岡黒田藩とは藩境・藩政をめぐって対峙しており、在住の農民層が帯刀を許されており、佐賀県域において特異な地域である。現状では、周辺（佐賀県域）に周知の埋蔵文化財包蔵地等、遺跡は確認されていないが、事業地区内には、県天然記念物の小川内の杉が所在する（小川内山祇神社境内：昭和31年指定）。

調査概要　調査対象地区を5地点に大別し、幅1～2ｍ前後のトレンチ（試掘坑）を任意に設定し、掘削機および人力により調査を行った。

（第１地点）

調査方法　トレンチ50本を任意に設定し、掘削機および人力を用いて調査した。

調査結果　いずれのトレンチからも、遺構は確認されなかった。谷部については、谷上位からの流出土（花崗岩および花崗岩風化土）が大量に堆積しており、その下位はすぐに岩盤（花崗岩）が露出した。丘陵部については、表土下位に旧表土が認められる箇所もあるが（旧表土の時期は不明）、多くのトレンチでは、すぐに岩盤が露出した。№45トレンチからは黒曜石片が出土したが、表土内から確認されたものである。№30トレンチは、調査対象地区北西端近くの石垣の一部に、踏査で得られていた所見を確認するため設定した。その結果、江戸期に遡る可能性のある2段積の石垣であることが確認された。

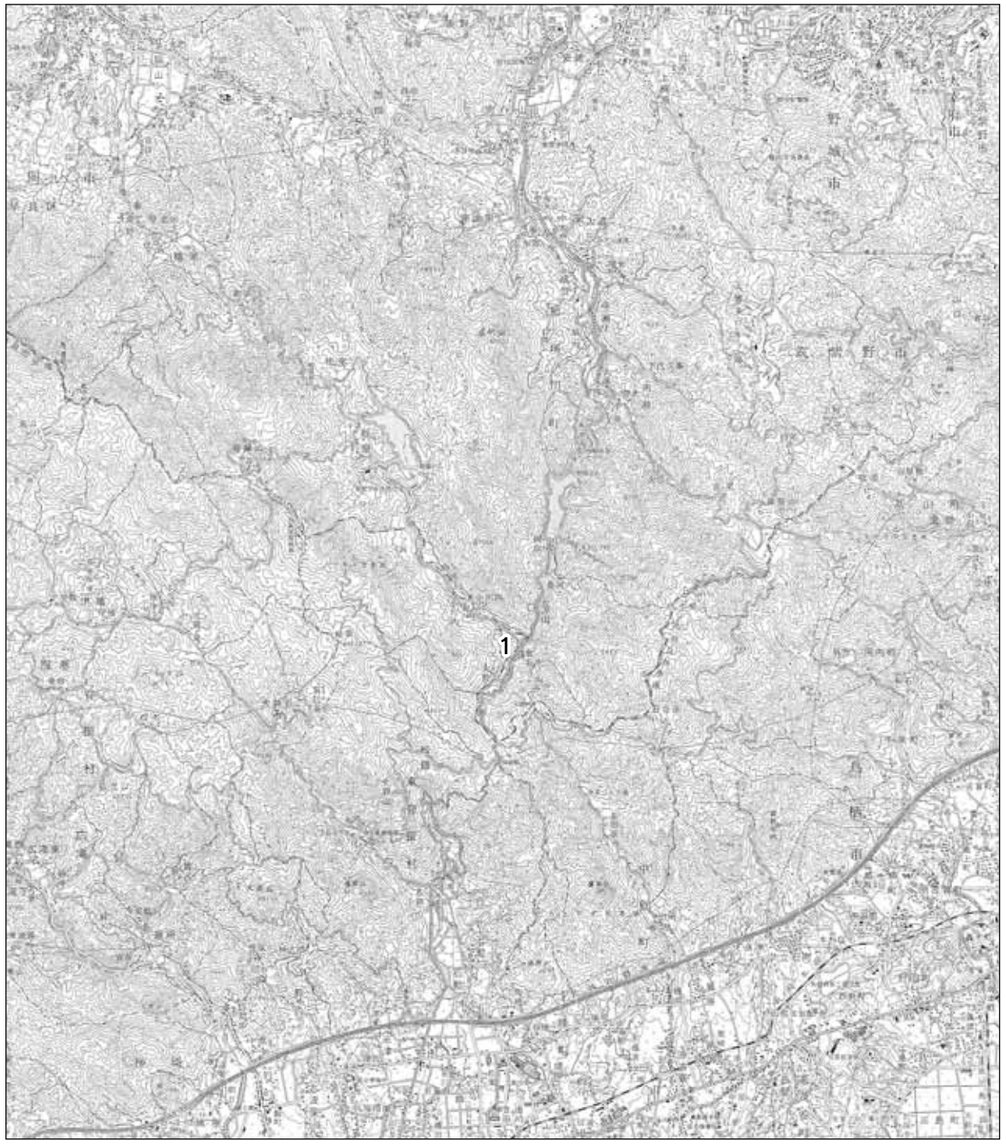
所　見　調査対象地から、遺構は確認されなかったことから、工事については支障ないものと考えられる。№30トレンチで再確認した石垣については、記録保存（測量・石垣実測）を行うことで合意済。

（第２地点）

調査方法　トレンチ14本を任意に設定し、掘削機および人力を用いて調査した。

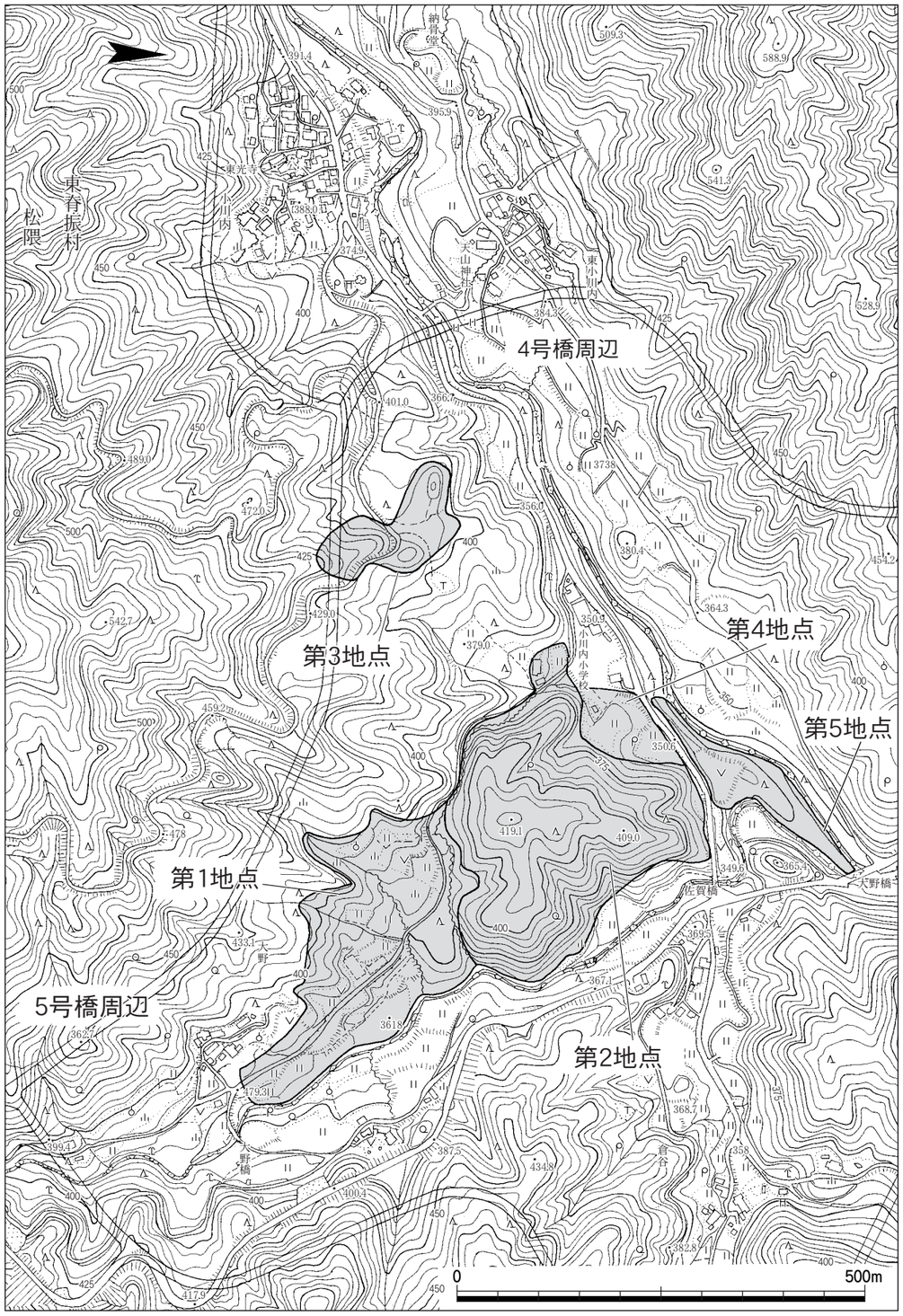
調査結果　いずれのトレンチからも、遺構は確認されなかった。丘陵部については、表土直下に花崗岩風化土が露出した。遺構・遺物は確認されなかった。谷部については、丘陵部から流出したと考えられる花崗岩・花崗岩風化土および砂が堆積していた。一部のトレンチでは、湧水が激しく調査継続が不能になった。このうち、№11トレンチの砂層から土師器片が出土した。小破片で磨耗しており、時期の限定は難しい。いずれにしても、丘陵上位からの流れ込みであると考えられる。

所　見　調査対象地から、遺構は確認されなかった。また、一部に遺物が出土したが、遺構の存在を示すものではない。工事については支障ないものと考えられる。

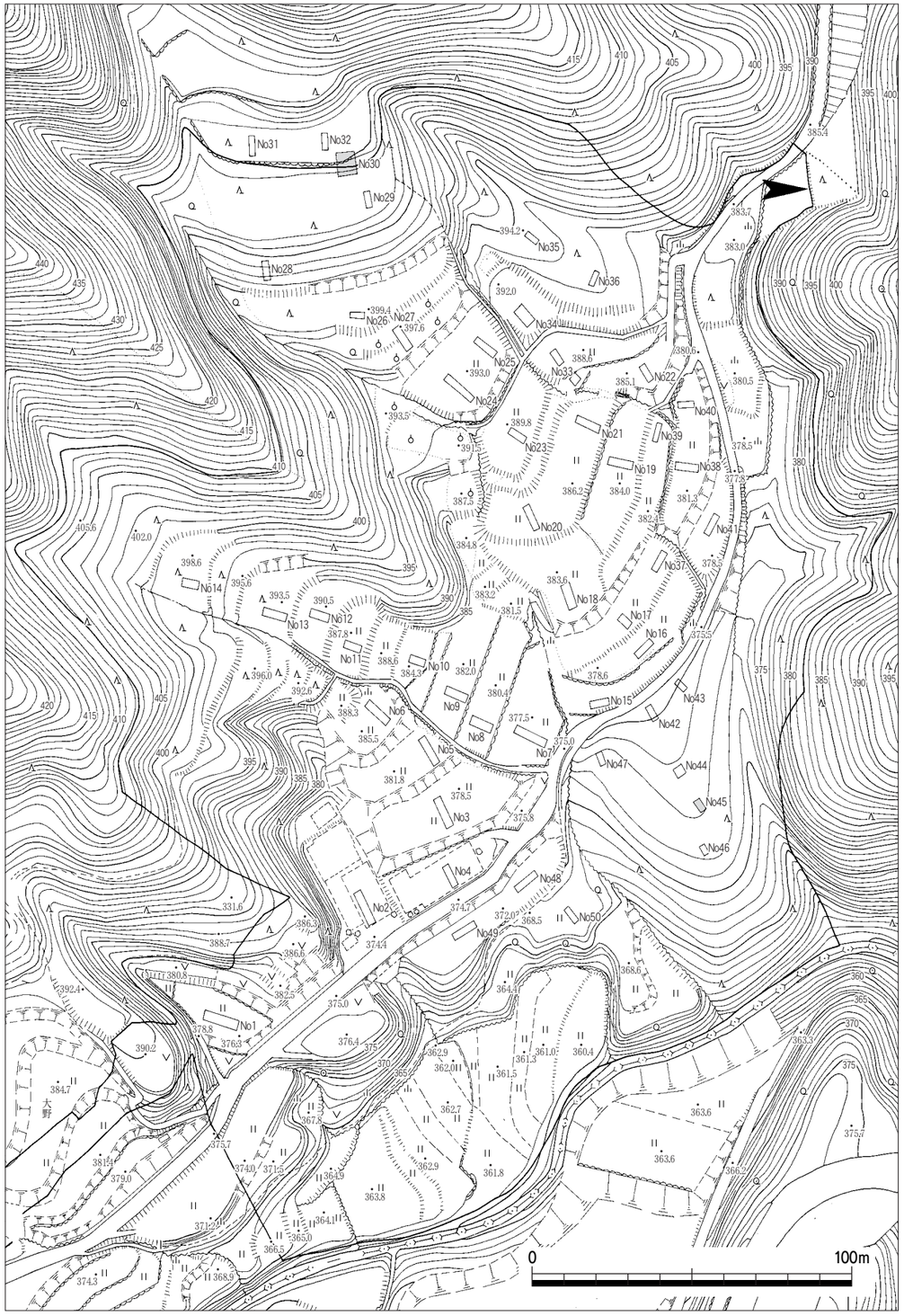


第12図　東脊振村：那珂川総合開発事業（五ヶ山ダム建設事業）調査地区位置図（S=1:100,000）

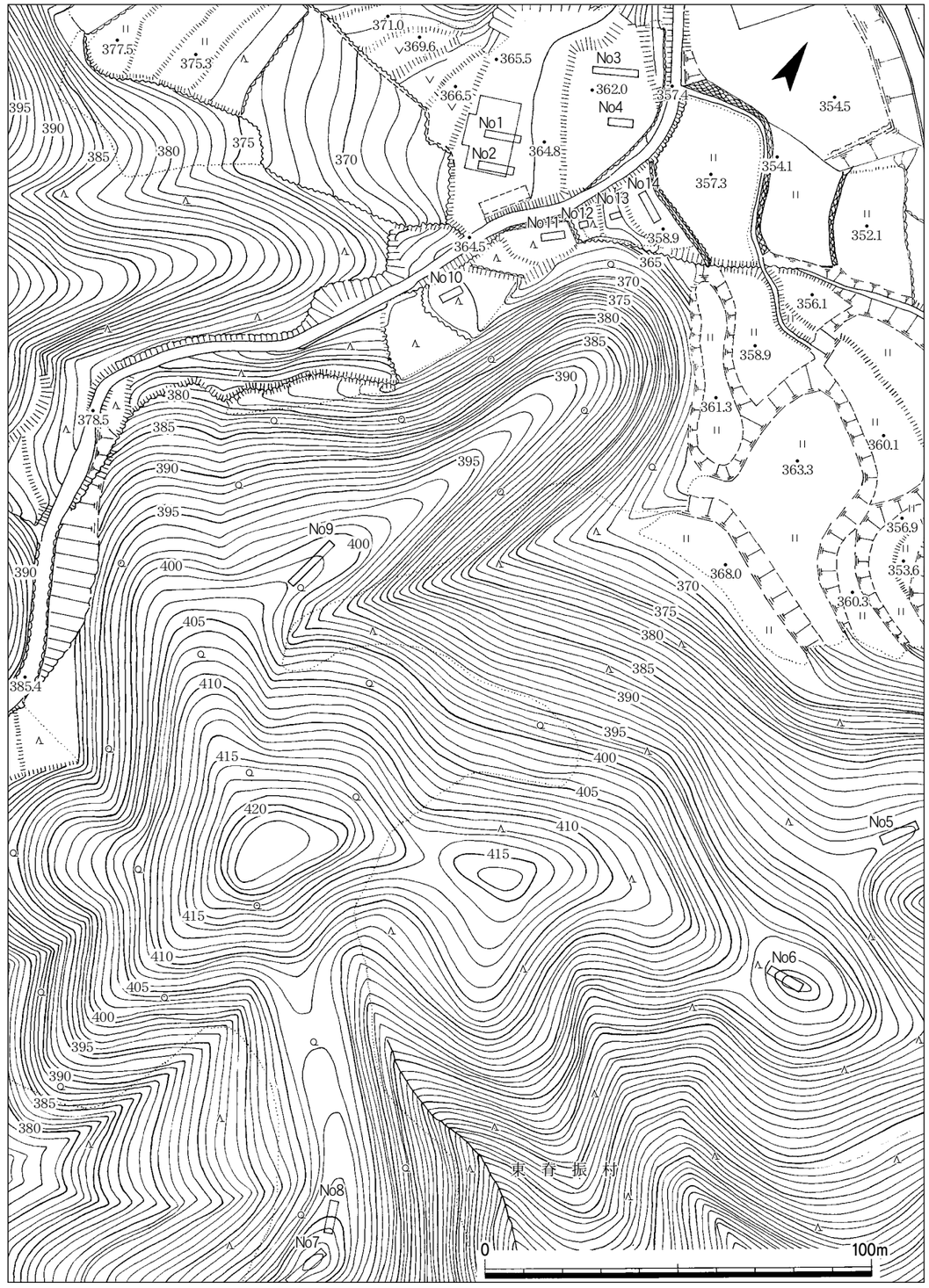
1　五ヶ山地区（第1～第5地点）



第13図　東脊振村：五ヶ山ダム建設事業　調査対象地区位置図



第14図　東脊振村:五ヶ山ダム建設事業　第1地点トレンチ配置図



第15図　東脊振村:五ヶ山ダム建設事業　第2地点トレンチ配置図

（第３地点）

調査方法　トレンチ7本（水没地区内に6本、周回道路建設箇所に1本）を任意に設定し、掘削機および人力を用いて調査した。

調査結果　いずれのトレンチからも、遺構・遺物は確認されなかった。すべてのトレンチで、表土直下から花崗岩風化土が露出した。№4トレンチでは、阿蘇4火砕流と考えられる赤褐色土（炭化木混じり）が検出された。3トレンチの南側において、安山岩の剥片が表面採集された。周辺では、№16トレンチ南部においても、安山岩の剥片が表面採集されている（平成17年10月5日踏査の際）。

所　見　　調査対象地から、遺構および遺物包含層は確認されなかった。ただし、剥片が表面採集されていることから、周辺の丘陵部については、引続き確認調査が必要である。

（第４地点）

調査方法　7本のトレンチを任意に設定し、掘削機および人力を用いて調査した。

調査結果　いずれのトレンチからも、遺構・遺物は確認されなかった。表土の下位からは旧表土、客土等が確認され、その下位からは花崗岩風化土が確認された。一部の粘質土については、遺物包含層の可能性があったが、遺物は確認されなかった。

所　見　調査対象地から、遺構・遺物は確認されなかった。工事については支障ないと考えられる。

（第５地点）

調査方法　トレンチ5本を任意に設定し、掘削機および人力を用いて調査した。

調査結果　いずれのトレンチからも、遺構・遺物は確認されなかった。表土の下位からは旧表土、客土等が確認され、その下位からは花崗岩風化土が確認された。

所　見　設定したトレンチからは、遺構・遺物は確認されなかった。

　ただし、調査対象地区の大部分は、伐採した材木の集積場として使用されており、十分にトレンチを設定できなかったため、引続き、確認調査が必要である。

　なお、調査区南東部の河川にはさまれた箇所（「象の鼻」のような地形の箇所）の周囲には、護岸とも思える石垣が構築されている。詳細な調査が必要だが、石垣は江戸期に遡る可能性もあることから、石垣の調査とともに、確認調査を継続する必要がある。

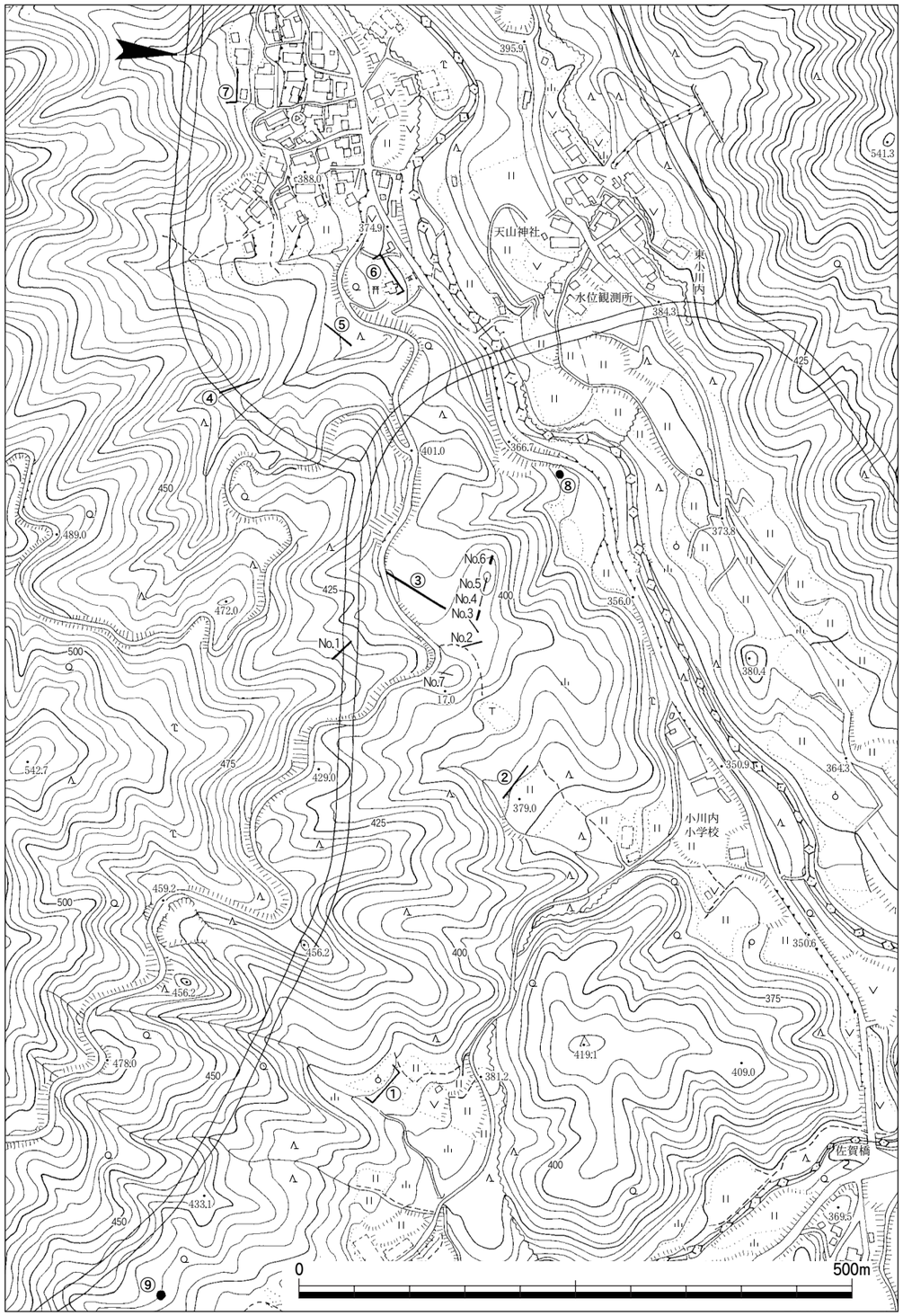
（総括）

調査内容　**（検出遺構）**江戸期の石垣

　　（出土遺物）土師器片（時期不明）・黒曜石片

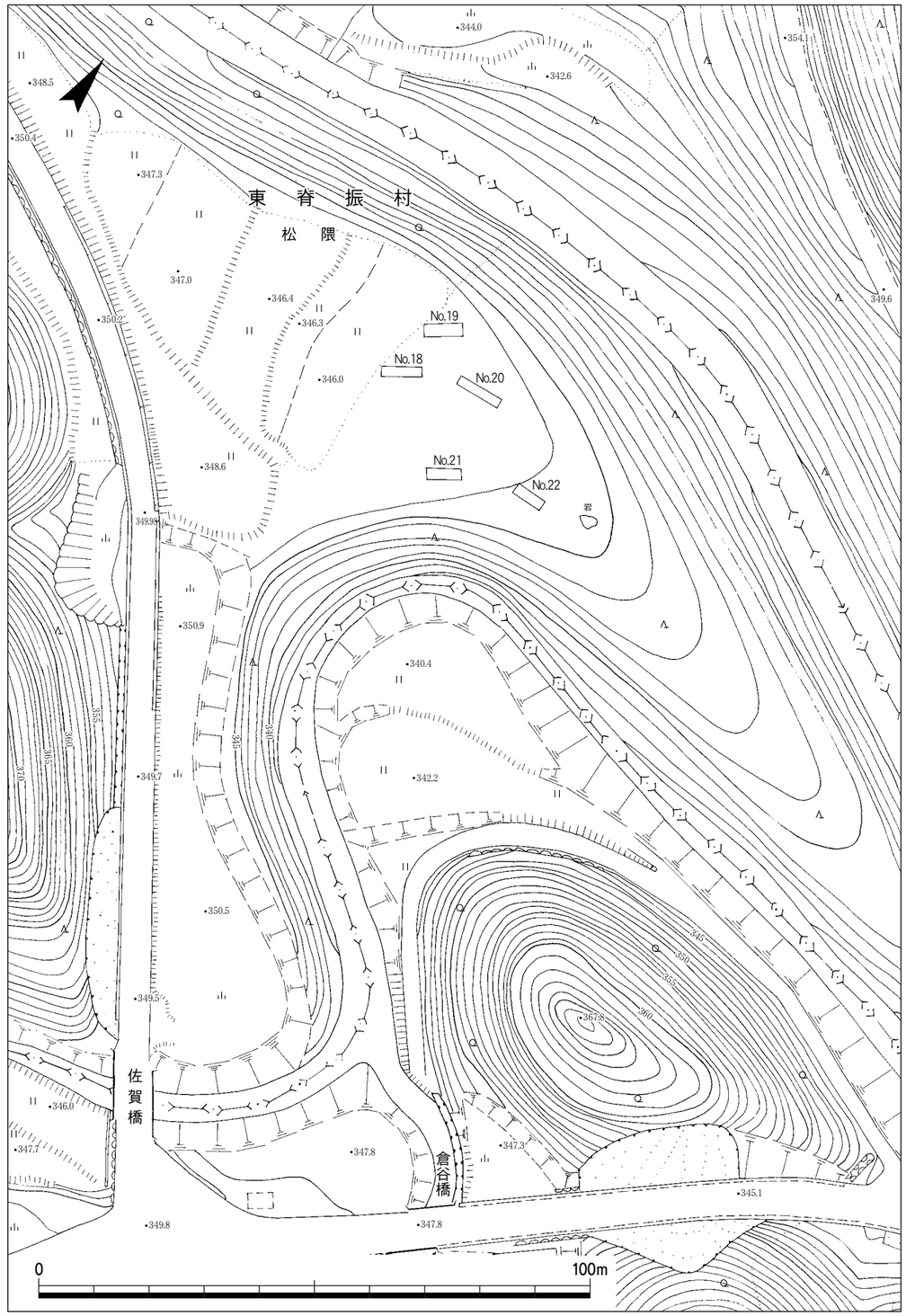
所見・その他　第1地点で確認された石垣は、踏査時点から存在は判明していたが、時期・特徴等を確認するためトレンチを設定した。その結果、石積みの特徴から江戸期に遡る可能性があるとともに、他の石垣と異なり2段積であることが確認された。他の地点については、遺構は確認されなかった。一部のトレンチから遺物が出土したが、遺構の存在を示すものではない。大部分のトレンチからは、表土直下から花崗岩や花崗岩風化土（岩盤）が露出した。第1地点で確認された石垣については、記録保存（測量・実測）の措置が必要である。第5地点については、確認調査が完了していないため、未調査地区とあわせ引続き確認調査が必要である。その他の地点・箇所については、事前の踏査により支障なしと判断した箇所とともに、工事については支障ないと考える。

　なお、協議があった4号橋周辺については、踏査の結果、確認調査の必要は認められなかった（平成17年10月～11月踏査実施）。5号橋周辺については、平成16年度、事前に踏査および工事立会を実施しており、調査の必要は認められなかった（平成16年4月踏査、同年9月工事立会）。



第16図　東脊振村：五ヶ山ダム建設事業　第3地点トレンチ配置図・石垣等位置図（S=1:5,000）

第17図　東脊振村：五ヶ山ダム建設事業　第4地点トレンチ配置図（S=1:1,000）



第18図　東脊振村：五ヶ山ダム建設事業　第5地点トレンチ配置図（S=1:1,000）

1　第1地点　No.30トレンチ　石垣東端（東から）

2　第1地点　No.30トレンチ　石垣角（北東から）

3　第1地点　No.30レンチ　石垣上段（北から）

4　第1地点　確認調査状況

5　第2地点　No.6トレンチ遠景（西から）

図版10　東脊振村：五ヶ山ダム建設事業1

1　第2地点　No.11トレンチ（東から）

2　第2地点　No.5トレンチ　重機稼動状況

3　第2地点　No.5トレンチ　作業員作業状況

4　第3地点　No.3トレンチ（西から）

5　第3地点　No.4トレンチ（東から）

6　第3地点　No.6トレンチ（西から）

7　第4地点　作業状況

8　第5地点　No.3トレンチ（南西から）

図版11　東脊振村：五ヶ山ダム建設事業2

五ヶ山ダム事業地区内における石垣・石造物について（第16図・図版12～13）

五ヶ山ダム事業地区内（小川内地区・大野地区）には、多くの石垣や石造物が存在する。石垣は石材を用いた構造物で、棚田・民家敷地土台・寺社境内・堰・石橋などの、山間村落としての特徴を示す重要な構成要素となる。また、石造物は時期が不明なものもあるが、多くは時期・性格が明らかで石碑・石祠・墓石・境界石・石像など現在でも地域民の信仰の対象として存在する他、地域を特徴づける記念物となっている。

事業対象地は、戦国時代から肥前国と筑前国の領土が接していた場所で、特に佐賀鍋島藩と福岡黒田藩とは藩境・藩政を巡って対峙しており、佐賀県の近世史を考えるうえで重要な地域である。このような観点から、当該地域の石垣は他地域の石垣と比較検討する事により、石垣構築技術がどのように展開されたのか知る上でに基礎資料となり留意する必要があろう。また、石像物については、銘文により時期や性格が推定されるものが多く、現在でも信仰の対象や地域を特徴づける記念物として存在しておりこの地域の歴史・民俗を代表する文化財である。

事業地区内を踏査したところ、各地域の中で、まず近現代の補修が著しく当初の築造状況は大きく損なわれているものの、比較的補修が少ない石積みも残存している。自然石を使用し、玄翁や矢穴を用いて石材を加工している石垣も残存し、石積みも近現代の技法と異なる技法が認められた。また、石像物については、民俗的な調査が行われているが今後、正確な実測図等の作成が必要になってくると考えられる。

1　石垣①

2　石垣②

3　石垣③

4　石垣④

図版12　東脊振村:五ヶ山ダム建設事業3石垣

1　石垣⑤

2　石垣⑦

3　石像物⑧

4　石像物⑨

図版13　東脊振村:五ヶ山ダム建設事業4石垣･石造物

2．嘉瀬川ダム建設事業に係る文化財確認調査

（1）富士町（第19～22図、図版14）

調査対象地区名　**嘉瀬川ダム建設事業（水没地区）**
大串・栗並・畑瀬地区

調査対象地所在地　佐賀市富士町大字大串・栗並・畑瀬

調査対象面積　4,500㎡（調査面積　142.59㎡）

調査担当者　佐賀県文化課　文化財調査担当主査　徳永貞紹、同主査　渋谷格

調査期間　平成18年3月20日～平成18年3月24日

調査対象地区の立地　**大串地区**：大串川の河岸段丘最下面か旧河道。近年の耕作整理により造成され、平坦面となっている。**栗並地区**：丘陵北側の斜面に造成された平坦面。江戸後期以降に神社敷地として造成されたものか。**畑瀬地区**：嘉瀬川の河岸段丘最下面か造成された平坦面。江戸後期以降に神社敷地として造成されたものか。

周辺の遺跡及び遺跡の内容　**大串地区**：南方にやや離れて大串遺跡（縄文時代散布地・中世集落跡）。**栗並地区**：子安神社遺跡（縄文時代散布地）範囲内。**畑瀬地区**：西畑瀬遺跡（縄文時代～近世集落跡）範囲内。隣接地の発掘調査では縄文時代～中世の遺構・遺物を検出している

調査方法　掘削機を用いて試掘坑（トレンチ）を掘り下げ、人力で精査して遺構・遺物の有無を確認した。

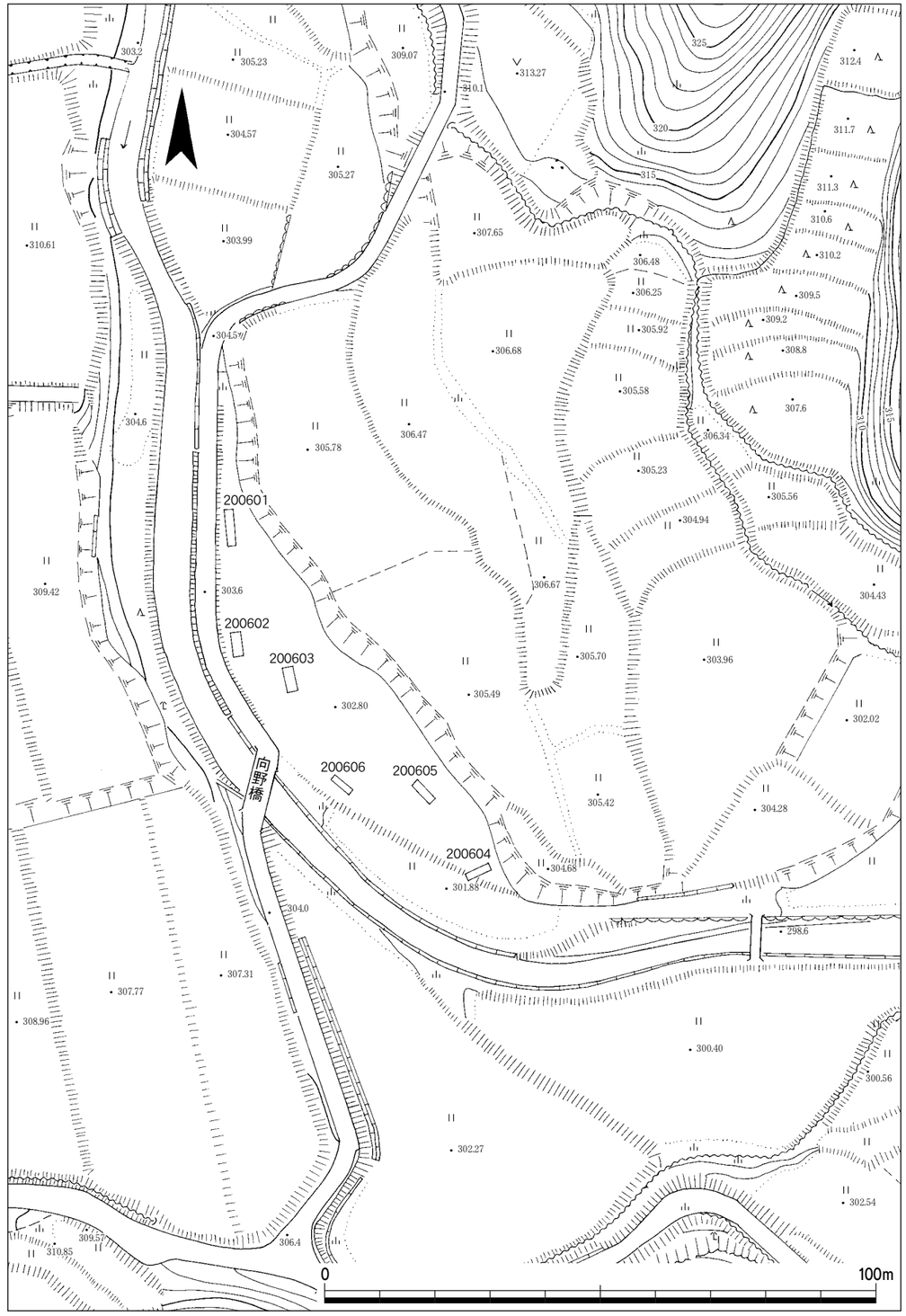
調査内容　**（検出遺構）**なし。
（出土遺物）畑瀬地区で、中世土師器片・小皿片、近世～近代陶磁器・土器片若干出土。

所見・その他　対象地区内に遺跡の残存は確認できなかった。

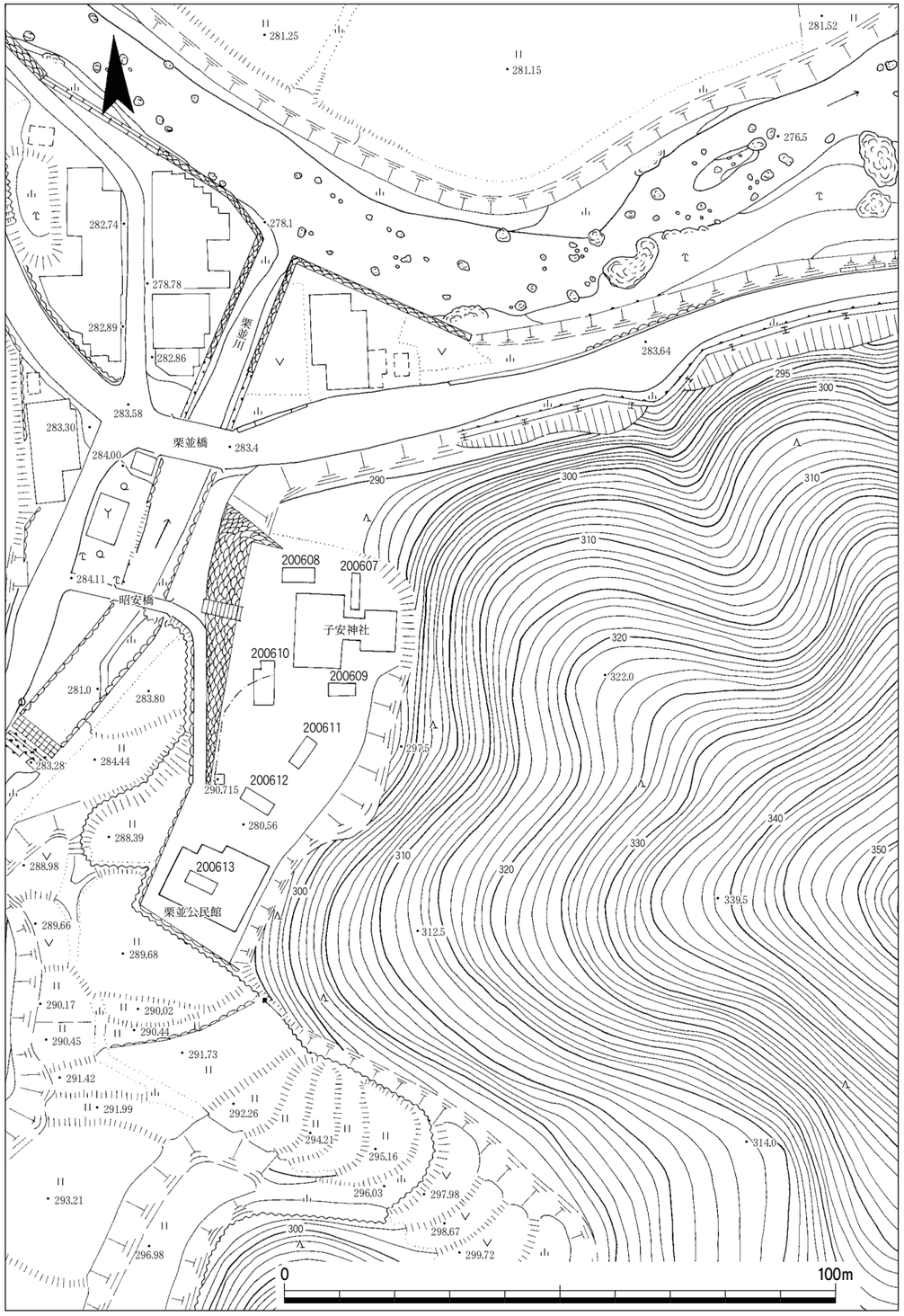
調査後の取扱い　ダム完工後に水没予定。

第19図　佐賀市富士町：嘉瀬川ダム建設事業調査地区位置図（S＝1:100,000）

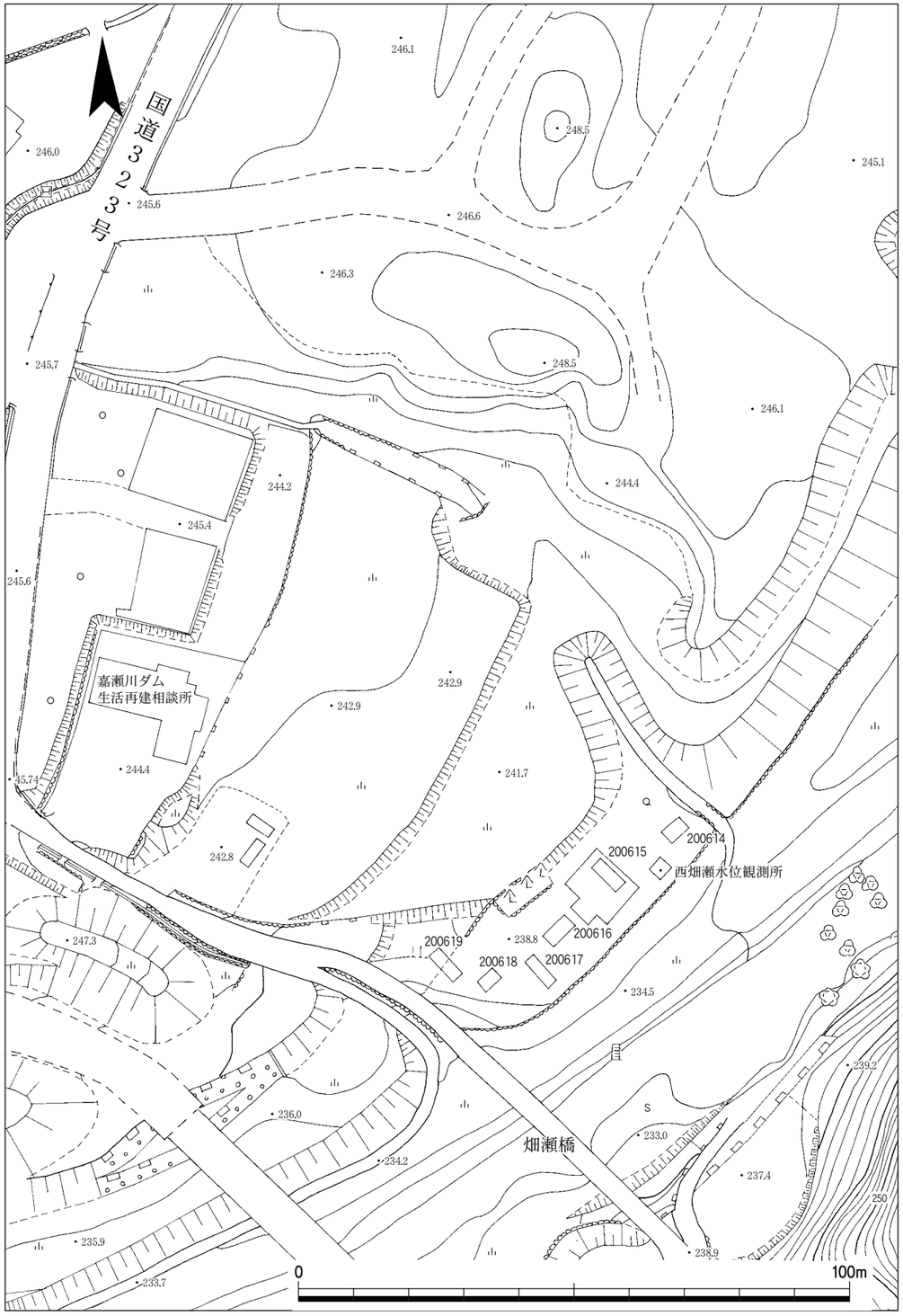
1　大串地区　　2　栗並地区　　3　畑瀬地区



第20図　嘉瀬川ダム建設事業　大串地区トレンチ配置図（S=1:1,000）



第21図　嘉瀬川ダム建設事業　栗並地区トレンチ配置図(S=1:1,000)



第22図　嘉瀬川ダム建設事業　畑瀬地区トレンチ配置図(S=1:1,000)

1　大串地区　200601確認調査　掘削機稼動状況

2　大串地区　200601確認調査状況

3　大串地区　200602土層

4　大串地区　200602調査状況

5　栗並地区　200608調査状況

6　栗並地区　200609検出状況

7　畑瀬地区　200617付近遠景

8　畑瀬地区　200617調査状況

図版14　富士町:嘉瀬川ダム建設事業地区内確認調査状況

Ⅲ．まとめ

平成17年度に実施した確認調査の結果等については表4にまとめた。ここでは確認された遺構等を中心に時代ごとに総括しておく。縄文時代に属する時期のものとしては、伊万里市腰岳地区の調査対象地およびその周辺でこの時期に属する黒曜石原石の散布が認められたが、原位置を保ったものではなく、今回の確認調査では遺構およびそのほかの遺物は確認されなかった。

古墳時代の遺跡としては、佐賀市久保泉町の筑後川下流農業水利事業（城原金立線）予定地の浦田遺跡では古墳時代の遺物や小穴などの遺構が確認され集落跡の一部と考えられた。

近世の遺跡としては、山内町の森林環境保全整備事業　林道（板ノ川内～日ノ峯線）開発に伴い、国指定史跡「肥前磁器窯跡百間窯跡」に近い板ノ川内地区の確認調査を行った。調査の結果、窯場関連施設跡は検出されなかったが旧流路跡が確認され、その最下層部（岩盤の直上）から近世期の大量の磁器片、少量の陶器片・窯道具が出土した。岩盤直上は水性堆積層であり、大型の陶磁器片を大量に含むことから、短期間に堆積したものと考えられている。今回確認された流路は、周辺の地形や字図に表れた地割等から、百間窯跡と窯ノ辻窯跡（百間北窯跡）の間の谷から流れ出る流路跡であると考えられる。出土した遺物の時期は、筒形碗の高台の特徴などから、16世紀前半（1610年代～1640年代）の製品と考えられる。流路跡は、百間窯跡と窯ノ辻窯跡（百間北窯跡）との間の谷からのびており、今回の調査で出土した遺物は、両窯跡の製品と考えられる。

また、那珂川総合開発事業に伴う五ヶ山ダム地区で確認された石垣は、石積みの特徴から江戸期に遡る可能性があるとともに、他の石垣と異なり二段積であることが明らかになった。事業対象地は、戦国時代から肥前国と筑前国の領土が接する場所で、特に佐賀鍋島藩と福岡黒田藩とは藩境・藩政を巡って対峙しており、佐賀県の近世史を考えるうえで重要な地域である。このような観点から、当該地域の石垣は他地域の石垣と比較検討する事により、石垣構築技術がどのように展開されたのか知る上での基礎資料となる。また、石像物は、現在でも信仰の対象や地域を特徴づける記念物として存在しており、今後、石垣と共に正確な実測図等の作成が必要になってくると考えられる。

石井樋地区歴史的水辺整備事業（嘉瀬川河川改修工事）については、これまでの発掘調査で石井樋を構成した各種治水システムを示す遺構群が良好な状態で検出され、全国的にも貴重な治水遺跡であり将来の国指定の史跡に値するものと評価されるに至った。また、整備事業と遺跡の保存活用の両立を図るため、国土交通省の協力を得て、整備手法の再検討を行うこととし、当該文化財を主管する佐賀市並びに大和町教育委員会、そして佐賀県教育委員会文化財課では、国土交通省との協議を円滑に進めるため、文化庁とも協議の上、文化財部局の取扱い基準を検討した。当該地が河川敷内という特殊性を考慮すると共に、将来の史跡指定を想定し、発見した遺構が保全できるように調整を進めている。

以上の農林業基盤整備事業、那珂川総合開発事業に伴う五ヶ山ダム建設事業、その他国・県主体の公共事業（嘉瀬川ダム建設事業など）については、市町村教育委員会の協力を得て、佐賀県教育委員会が事業主体となって確認調査等を実施した。

なお、国土交通省佐賀国道事務所所管の事業や佐賀県県土づくり本部の県道整備事業等については適宜、佐賀県教育委員会が事業計画と文化財保護との調整会議を主導した。特に佐賀県県土づくり本部の土木所管の事業については、平成17年10月下旬に県内の各土木事務所単位で協議を行い、事業計画と文化財の保護との調整を図った。その後、当該市町村教育委員会が調査主体となって確認調査を行なうなど埋蔵文化財の保護を行なった。

最後に、これら佐賀県内の埋蔵文化財保護行政に際して、ご協力をいただいた市町村教育委員会や関係各位に御礼を申し上げます。

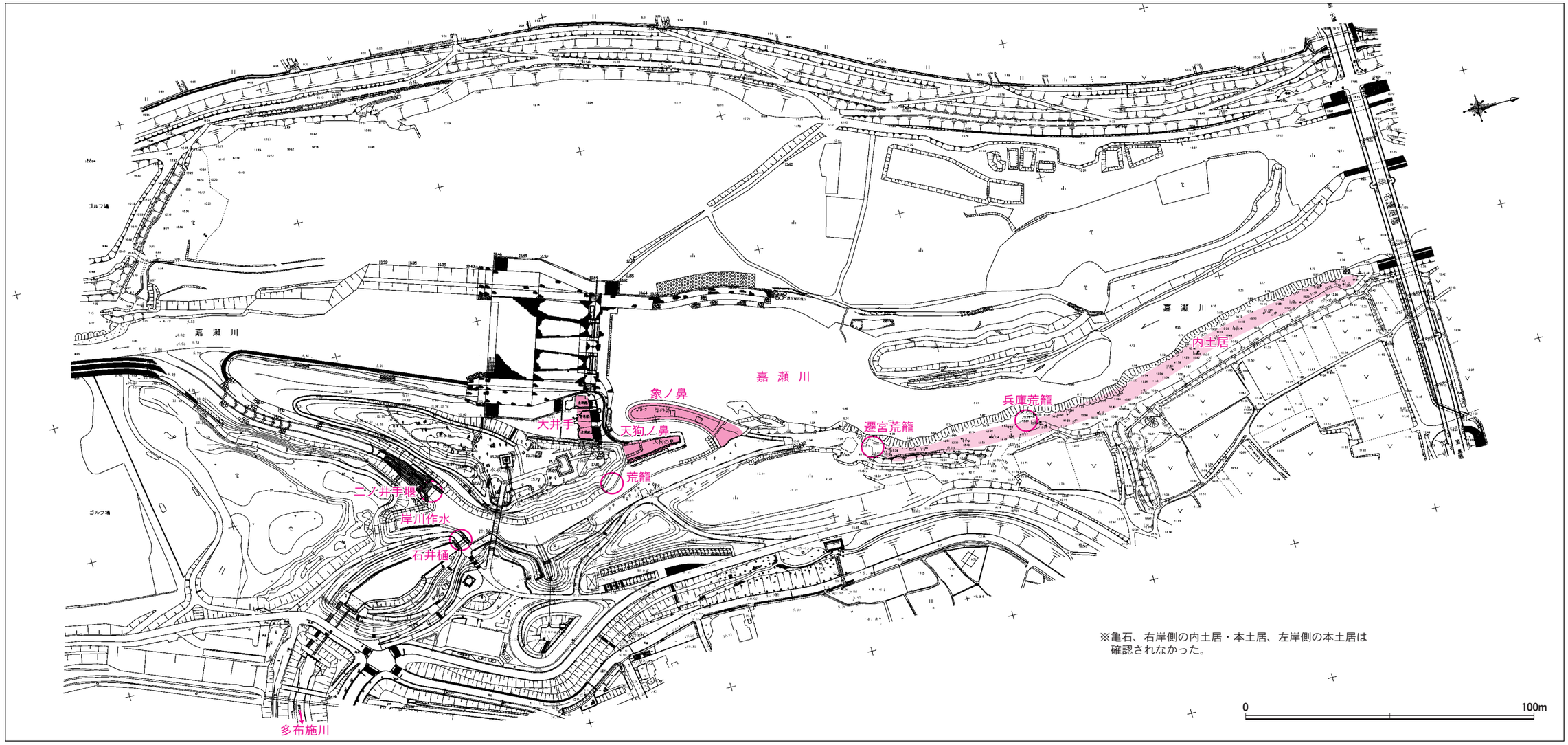
３． 石井樋地区歴史的水辺整備事業（嘉瀬川河川改修工事）に係る調査

（1）大和町（第23～24図）

調査対象地区名　**石井樋地区**
調査対象地所在地　佐賀郡大和町大字尼寺ほか
測量対象面積　0.1 ㎢
測量期間　平成17年9月26日～平成17年12月22日
調査対象地区の立地　嘉瀬川の河川敷

第23図　大和町：石井樋位置図（S＝1:50,000）

遺跡の内容等　近世初頭の取水施設。佐賀市と大和町に所在する石井樋では国土交通省による歴史的水辺整備事業が行われており、石井樋の歴史的機能を復元する整備工事が進められている。この事業に伴う発掘調査により、重要な遺構が良好な状態で発見され、全国的にも貴重な治水遺跡であることが明らかになったため文化庁と協議のうえ、地元自治体・佐賀県・国土交通省が相互に協力して国指定史跡を目指して準備を進めている。しかしながら、発掘調査を2市町それぞれが実施してきたことや遺構分布範囲が広大であるため、石井樋全体を範囲とした地形測量図がなく、今後の歴史的機能の解明や史跡指定事務に支障が生じることが予測されたため、将来の史跡指定範囲を網羅した縮尺1:500の地形測量図を作成した。



第24図　大和町：石井樋地形測量図

表４　佐賀県内遺跡確認調査地区一覧表（平成17年度実施）

【農林基盤整備事業に伴う文化財確認調査】

地　区	市町村名	工事地区名	所　　在　　地	確認調査対象（㎡）	調　査　結　果	担 当 者	備　　考
佐賀東部	佐賀市 （旧三瀬村）	三瀬地区 （中山間地域総合整備事業）	佐賀市三瀬村杠	32,000	遺構・遺物なし	古賀　章彦	未周知
	佐賀市	城原金立線 （筑後川下流農業水利事業）	佐賀市久保泉町大字川久保	21,000	古墳時代集落跡 土師器	白木原　宜 樋口　秀信	史跡　帯隈山隣接
佐賀北部	武雄市 （旧山内町）	板ノ川内地区 （森林環境保全整備）	武雄市山内町宮野	12,000	遺構なし。旧流路跡 磁器片・陶器片 窯道具	松瀬　京子 白木原　宜	史跡　百間窯跡隣接
佐賀南部	伊万里市	腰岳地区（予防治山）	伊万里市立花町字腰岳	3,000	遺構なし 黒曜石（原石）	柴田　　剛	腰岳遺跡群

【その他公共事業に伴う文化財確認調査地区】

地　区	市町村名	工事地区名	所　　在　　地	確認調査対象（㎡）	調　査　結　果	担 当 者	備　　考
五ヶ山ダム	吉野ヶ里町 （旧東脊振村）	五ヶ山ダム建設事業	神埼郡吉野ヶ里町小川内	535,000	江戸期の石垣 土師器片・黒曜石片	白木原　宜 樋口　秀信	未周知
嘉瀬川ダム	佐賀市 （旧富士町）	嘉瀬川ダム建設事業 （大串地区・栗並地区・畑瀬地区）	佐賀市富士町大字 大串・栗並・畑瀬	4,500	遺構なし 中世土師器・小皿片 近世～近代陶磁器	徳永　貞紹 渋谷　　格	大串遺跡 子安神社遺跡 西畑瀬遺跡
嘉瀬川 河川改修	佐賀市 （旧大和町・ 旧佐賀市）	嘉瀬川河川改修工事	佐賀市大和町大字尼寺・ 鍋島大字蛎久	測量面積 100,000	近世水利施設	（五島　昌也）	石井樋 測量調査のみ

資料１

Ⅳ．資料

農林業基盤整備事業等に係る文化財調査の進め方

①９月上旬

翌（々）年度事業計画書の提出

農林担当部局から県文化課へ翌（々）年度工事施工計画図等の提出（協議）

②９月中旬～10月中旬

市町村教委と事前打ち合わせ及び現地踏査等

市町村教委と図面をもとに確認調査箇所について打ち合わせ

③10月中旬

第１回協議

九州農政局筑後川下流農業水利事務所
筑後川下流白石平野農業水利事業所
佐賀中部農地防災事業所
県農林担当課・県農林事務所
市町村農林担当課・市町村教育委員会
文化課と確認調査についての打ち合わせ

④10月中旬～12月上旬

文化財確認調査実施

※協議の結果、確認調査が必要と判断された場合のみ

⑤11月下旬～12月上旬

個別協議

文化財所在地区の農林業基盤整備事業等について協議（数回）

⑥12月中旬

第２回協議

翌年度発掘調査箇所（面積）の決定、発掘調査の時期調整

⑦新年度

発掘調査

資料２

○農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の保護に関する確認事項

昭和53年4月1日　佐賀県教育委員会教育長
佐賀県農林部長
昭和59年4月1日　改正

農業基盤整備事業等（以下「事業」という）埋蔵文化財保護の調査（以下「調査」という）との関係の調整については文化財保護法第57条並びに文化財保護法の一部改正に関する覚書（昭和50年5月23日文化庁長官農林省構造改善局長）の趣旨に基づき、佐賀県農林部と佐賀県教育委員会は次の事項について確認する。

1　文化財保護担当部局は事業の実施予定地区に係る文化財の調査に当っては当該事業の計画的かつ円滑な実施に支障が生じないよう措置するものとする。

2　農業担当部局は周知の埋蔵文化財包蔵地等における事業の策定に先立ち、事業と文化財保護との連絡調整をはかるため、あらかじめ文化財保護担当部局と協議するものとする。

3　当該事業の施行にあたっては前々年度の9月上旬までに計画図等を添えて佐賀県教育委員会へ連絡し調整をはかるものとする。

4　文化財保護担当部局は当該地区の文化財確認調査を原則として事業施行前々年度に終了するものとする。また事業地区の変更等が生じた場合は、ただちに農業担当部局は文化財保護担当部局に協議する。

5　確認調査の結果埋蔵文化財が発見された場合、文化財保護担当部局は当該地区の文化財の保護に関し農業担当部局と協議し事業計画上やむを得ず破壊される遺跡等について行う発掘調査については原則として事業施行前年度に終了するよう努めるものとする。

ただし確認調査の有無にかかわらず工事中に埋蔵文化財が発見された場合農業担当部局は工事を一時中止して、文化財担当部局へその旨連絡し協議するものとする。

6　発掘調査の促進にあたっては農業担当部局はこれに協力するものとする。

7　事業の実施予定地区に係る埋蔵文化財の調査に要する経費は原則として文化財保護担当部局において負担するものとする。

ただし、やむを得ず当該調査に要する経費を事業費のなかで負担せざるを得ない場合においても当該経費のうち農家負担分については文化財保護担当部局において負担するものとする。

8　その他事業計画遂行にあたり、文化財保護について問題が生じた場合はその都度協議するものとする。

報　告　書　抄　録

ふりがな	さがけんないいせきかくにんちょうさほうこくしょ25
書名	佐賀県内遺跡確認調査報告書25
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書
シリーズ番号	第171集
編集者名	松尾 法博
編集機関	佐賀県教育庁文化課
所在地	〒840－8570　佐賀県佐賀市城内一丁目1－59　　Tel. 0952(24)2111
発行年月日	2007年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査対象面積 （確認調査） ha	調査原因
佐賀県農林業基盤整備事業地区内遺跡 五ヶ山ダム建設予定地内遺跡 その他公共事業予定地内遺跡	佐賀県内					20050401 ～ 20060331	約220.29ha	佐賀県農林業基盤整備事業 五ヶ山ダム建設事業 その他公共事業

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
佐賀県農林業基盤整備事業地区内遺跡 五ヶ山ダム建設予定地内遺跡 その他公共事業予定地内遺跡	散布地 遺物包含層 集落跡	縄文時代 古墳時代 近世	石垣 旧流路跡 小穴など	土師器片 陶器 磁器 窯道具 黒曜石（原石）など	

佐賀県文化財調査報告書第171集

佐賀県内遺跡確認調査報告書 25

発　行　日　平成19年3月
編集・発行　佐賀県教育委員会
佐賀市城内一丁目1－59
印　　刷　誠文堂印刷株式会社
佐賀市兵庫町大字藤木396－1